

松本市基幹博物館 建設計画

美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本

平成29年3月

松本市・松本市教育委員会

目次

第1章 松本市基幹博物館建設計画の目的	1
1 建設計画策定の目的	
2 建設計画策定の経過	
第2章 松本市立博物館の現状と課題	3
1 設置と沿革	
2 施設概要	
3 事業活動	
4 松本市立博物館及び分館	
5 課題	
第3章 施設整備方針 ～松本市立博物館開館200年を見据えて～	9
1 松本市基幹博物館の位置付け	
(1) 目的	
(2) 性格	
(3) 機能	
2 施設整備の基本的な考え方	
(1) 整備のコンセプト	
(2) 整備の基本方針	
3 建築設計に当たって	
(1) 敷地条件	
(2) 施設規模	
(3) 建設における留意点	
第4章 施設機能と諸室	19
1 収集・保存機能	
2 調査・研究機能	
3 展示・学習支援機能	
(1) 展示機能	
(2) 学習支援機能	
4 交流・情報交換機能	
5 集客・観光機能	
6 共用スペース	
7 施設管理	
8 附帯施設等	
9 基幹博物館の諸室構成	
(1) 機能・諸室構成（概念図）	
(2) 諸室・設備一覧	

第5章 開館に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

- 1 今後の整備スケジュール
- 2 博物館整備に伴う留意点

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料編1

- 1 松本市基幹博物館施設構想策定委員会における、目指すべき博物館についての議論
- 2 市民アンケート
- 3 市民ワークショップ
 - (1) 新しい博物館について みて・考えて・語り合うワークショップ
 - (2) 新しい博物館を考える市民のワークショップ
- 4 所蔵資料の現状
 - (1) 所蔵資料の現状
 - (2) 所蔵資料の状況（国指定文化財より）

第1章 松本市基幹博物館建設計画の目的

1 建設計画策定の目的

松本市基幹博物館建設計画（以下「建設計画」という。）は、基幹博物館の整備の基本的な考え方や施設概要等を整理した「松本市基幹博物館施設構想」（平成29年3月策定。以下「施設構想」という。）を補完し、建築及び展示の設計提案に必要なガイドラインを定めることを目的とします。

なお、本計画は、各分野の専門家等から組織した松本市基幹博物館施設構想策定委員会からの報告書を基に、松本市が検討した結果をまとめて策定したものです。

2 建設計画策定の経過

松本市立博物館は、明治39年に松本尋常高等小学校内に設置された「明治三十七、八年戦役記念館」に由来する、国内でも有数の長い歴史をもつ博物館です。当館のその長い歴史は常に市民に支えられ、市民の記憶装置として松本の歴史を見つめてきました。

記念館の設置以降、三度の移転を経た後、昭和42年10月に現施設が松本城二の丸の現在地にて竣工、翌年開館となり、現在に至っています。

当初は県内でも有数の規模と設備を誇った現施設も、築年数を経て、近年、老朽化、狭隘化等の諸問題が顕著となりつつあり、また、情報化・バリアフリー化・国際化などへの対応も不十分な状態で、施設の改築が博物館をめぐる課題となってきました。

また、現施設は、国史跡松本城の中に位置しているため、現在地からの移転が必要であり、平成11年9月、「松本城およびその周辺整備計画」において、初めて現在地からの早期移転が整備目標とされました。翌平成12年6月策定の「松本まるごと博物館構想」において、松本市立博物館は中核施設（基幹博物館）として位置付けられ、移転・整備することが示されています。

基幹博物館整備の機運の高まりの中で、平成20年3月に松本市基幹博物館基本構想（以下「基本構想」という。）が、翌21年3月には松本市基幹博物館基本計画（以下「基本計画」という。）がそれぞれ策定され、「松本学」^{（注1）}の探求を通じて「ひとつづくり」、「まちづくり」に寄与する基幹博物館の機能・性格の整理が進み、建設場所には中心市街地が望ましいとする要件も提示されました。

第1章 松本市基幹博物館建設計画の目的

以降、慎重に建設予定地の選定を進めてきた結果、平成28年1月市議会教育民生委員協議会で、移転候補地を松本城三の丸エリアとすること、平成28年6月の市議会議員協議会で、松本市営松本城大手門駐車場敷地を建設予定地に決定し、施設規模（延床面積）は7,000㎡から8,000㎡までとすることが了承されました。

こうした基本計画策定後の博物館を取り巻く状況の変化を反映すること等が必要となり、施設整備の基本的な考え方を提示し、基幹博物館の施設概要を定める施設構想を策定し、更に、その内容を補完し、建築及び展示の設計提案に必要なガイドラインを定める建設計画の策定に至ったものです。

（注1） 松本市域で培われた<人><歴史・文化><自然>という視点から、地域社会の移り変わりや人の生き方を総合的に学び、松本の未来を創造する学のこと。

【図1 建設予定地】



第2章 松本市立博物館の現状と課題

1 設置と沿革

- (1) 設置根拠：松本市立博物館条例（平成24年条例第4号）
- (2) 所在地：松本市丸の内4番1号
- (3) 沿革

時期	内容
明治39年9月21日	松本尋常高等小学校内に明治三十七、八年戦役記念館開館
昭和6年6月1日	松本市の管理に移管
昭和13年9月17日	前年に松本城二の丸に移転し、松本記念館として有料開館
昭和23年2月11日	地蔵清水に移転し松本市立博物館と改称。山岳・民俗・考古・歴史・教育の5部門を常設展示
昭和23年4月23日	松本市立博物館管理条例を制定、松本城の管理を職務に編入
昭和27年7月21日	県下初の博物館法による登録博物館に登録
昭和27年11月	再び二の丸に移転
昭和27年12月24日	松本城管理事務所設置、松本城管理事務が分離
昭和34年3月31日	重要民俗資料（重要有形民俗文化財）収蔵庫を新築
昭和43年4月20日	博物館本館（現施設）開館（建設工事費 約2億8千万円）
平成12年6月	松本まると博物館構想策定
平成18年9月21日	開館100周年
平成20年3月	松本市基幹博物館基本構想策定
平成21年3月	松本市基幹博物館基本計画策定
平成24年3月	松本市立博物館条例を改正し、博物館附属施設を分館に位置付け、10月に博物館協議会を設置

2 施設概要

(1) 施設概要

区分	面積等	備考
建築面積	1,331.53 m ²	
建物高	14.80m	
構造	鉄筋コンクリート造 地上2階 地下1階	
延床面積	3418.30 m ²	
展示室面積	1,400.00 m ²	常設展示室 1階 507.2 m ² 地階 339.8 m ² 特別展示室 2階 553.0 m ²
収蔵庫面積	298.50 m ²	地階・1階・2階計
別棟収蔵庫面積	174.95 m ²	

(2) 諸室構成表

機能	機能詳細	室名	面積	割合
収集・保存	収蔵庫	地階収蔵庫	118.1 m ²	10.8%
		1階収蔵庫	49.6 m ²	
		2階収蔵庫	47.0 m ²	
		地階倉庫（旧燻蒸室）	14.4 m ²	
		地階倉庫（旧暗室）	9.0 m ²	
		事務室下倉庫	60.4 m ²	
		地階書庫	16.5 m ²	
	荷解室	54.4 m ²		
	小計		369.4 m²	
調査・研究	研究室	（研究図書室を含む）	0 m ²	0.0%
	小計		0 m²	
展示	常設展示室	地階展示室	339.8 m ²	41.0%
		1階展示室	507.2 m ²	
	特別展示室	2階展示室	553.0 m ²	
	小計		1400.0 m²	
学習支援		講堂	161.3 m ²	4.7%
	小計		161.3 m²	
サービス		受付・売店	38.8 m ²	1.1%
	小計		38.8 m²	
共用スペース		搭屋	19.8 m ²	26.4%
		その他	881.5 m ²	
	小計		901.3 m²	
施設管理		館長室	29.8 m ²	16.0%
		事務室（庶務）	46.1 m ²	
		研究図書室（学芸）	138.2 m ²	
		技師室	13.5 m ²	
		機械室	170.9 m ²	
		電気室	34.5 m ²	
	その他倉庫	114.5 m ²		
小計		547.5 m²		
合計			3418.3 m²	100.0%
■重要有形民俗文化財収蔵庫				
収集・保存	収蔵庫	収蔵庫	153.0 m ²	87.5%
	小計		153.0 m²	
共用		その他	21.95 m ²	12.5%
	小計		21.95 m²	
合計			174.95 m²	100.0%

(3) 主な所蔵資料

- ・国重要文化財孔雀文磬 1点（昭和34年指定）
- ・国重要有形民俗文化財「七夕人形コレクション」 45点（昭和30年指定）
- ・国重要有形民俗文化財「民間信仰資料コレクション」 293点（昭和34年指定）
- ・国重要有形民俗文化財「農耕用具コレクション」 79点（昭和34年指定）
- ・胡桃沢コレクション 約13,000点＋整理中資料約100箱（受入継続中）
- ・石曾根民郎関係資料 約17,000点＋整理中資料75箱
- ・赤羽鉄砲コレクション（松本城鉄砲蔵） 約980点
- ・戸田家資料（松本城寄託） 約1,100点
- ・所蔵資料概数

総記	考古	歴史	民俗	美術	その他	合計
9,000点	23,100点	23,200点	37,000点	3,700点	20,000点	116,000点

- ・図書資料概数 約48,000冊

3 事業活動

平成12年度に策定した松本まると博物館構想に基づき、市域全体を屋根のない博物館と捉え、自然・文化遺産を積極的に活用するため、分館とともに学都松本を支える博物館として、「ひとづくり」、「まちづくり」に寄与するため、市民と協働で博物館活動を推進しています。

常設展を始め、特別展の開催、刊行物の編集・発行、学都松本・博物館「勸館楽学」対談、「復活 話をきく会」、特別展に関連した講座・講演会を開催しています。市民学芸員養成講座の修了生からなる市民学芸員の会と協働して、展示解説・体験学習指導も行っています。

4 松本市立博物館及び分館

No.	施設名	主な収蔵資料	備考
1	松本市立博物館	考古・歴史・民俗	松本まるごと博物館本館・中核施設
2	重要文化財 旧開智学校校舎	文化財建造物・教育・歴史	旧市立開智小学校校舎の保存・転用 (昭和24年に重要美術品、36年に重要文化財指定)
3	松本民芸館	美術・工芸	昭和37年個人創館、敷地・建物・コレクションを市に寄附
4	松本市立考古博物館	考古	中山考古館(旧中山村考古館)を廃止、新築
5	松本市はかり資料館	産業・機械(度量衡)	当初、旧度量衡店を転用して開館、建物・度量衡資料を市に寄附 平成22年に旧三松屋蔵座敷を移築
6	松本市旧司祭館	文化財建造物	市に寄附、移築、長野県宝
7	窪田空穂記念館	文学	窪田空穂は歌人・文学者、空穂会の協力を得て新築、生家を市に寄附
8	旧制高等学校記念館	教育・歴史・文学	全国の旧制高等学校OBらの協力を得て新築、前身は旧制松本高等学校記念館
9	重要文化財馬場家住宅	文化財建造物・歴史・民俗	江戸時代末期建築の民家、屋敷地西半分と所在建造物6棟を市に寄附
10	松本市歴史の里	文化財建造物・歴史	旧長野地方裁判所松本支部庁舎は長野県宝、工女宿宝来屋は市重要文化財 旧財団法人が建造物6棟・資料を市に寄附
11	松本市時計博物館	産業・機械(時計)	本田(古時計)コレクションを本館から移管、中心市街地に新築
12	松本市四賀化石館	自然(地質・古生物)	旧四賀村立、合併時に市に移管
13	松本市安曇資料館	歴史・民俗	旧安曇村立、合併時に市に移管
14	松本市山と自然博物館	山岳・自然(生物・環境)	アルプス山岳館を廃止、自然・山岳資料を本館から移管、新築
15	松本市高橋家住宅	文化財建造物・歴史	江戸時代中期建築の武家住宅、建造物を市に寄附、市重要文化財

5 課題

(1) 現地での施設増改築が困難

現施設は国史跡内にありますが、文化庁の方針として史跡の時代等に
関連しないものが史跡内に存在することは本来避けるべきであるとされ
ており、増改築が困難となっています。

(2) 建物・設備の老朽化

展示技術、情報提供技術など、博物館にかかわる様々な技術が進歩し
活用される中、現在の建物、設備では、情報化などの技術進歩に対応す
ることが難しく、収蔵や展示のスペースの温湿度管理も万全とは言えな
い状況です。

このような状況下では、傷みにくい限られた資料を選んで展示せざる
を得ず、そのことが展示更新の頻度の低さ、「いつ行っても同じ展示であ

る」といった市民の評価につながってしまっています。

(3) 建物の狭隘化

現施設では、平成29年1月現在、約116,000点の資料と約48,000冊の図書資料を収蔵しています。

現在も市民からの寄贈申し入れがありますが、収蔵スペース不足のため十分に応じられない現状にあります。資料の増加に伴い、収蔵スペース不足が顕在化し、講堂や展示室、その他旧学校校舎を資料収蔵スペースに充てている状況です。

こうした状況は、市民による積極的な生涯学習の場として提供できる十分なスペースが用意できないことにもつながっており、市民のための博物館として解決しなければならない課題となっています。

(4) ユニバーサルデザインへの対応

現在の施設は、エレベーターやトイレ、床のタイルの細かな段差など、障害者や高齢者、子どもなど様々な来館者層に対応できる設備になっていません。

また、平成25年3月に示された「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」（国土交通省・観光庁）や平成28年7月に提言された「文化財の英語解説のあり方について」といった指針等に基づいた国際化への対応が十分に行われていません。

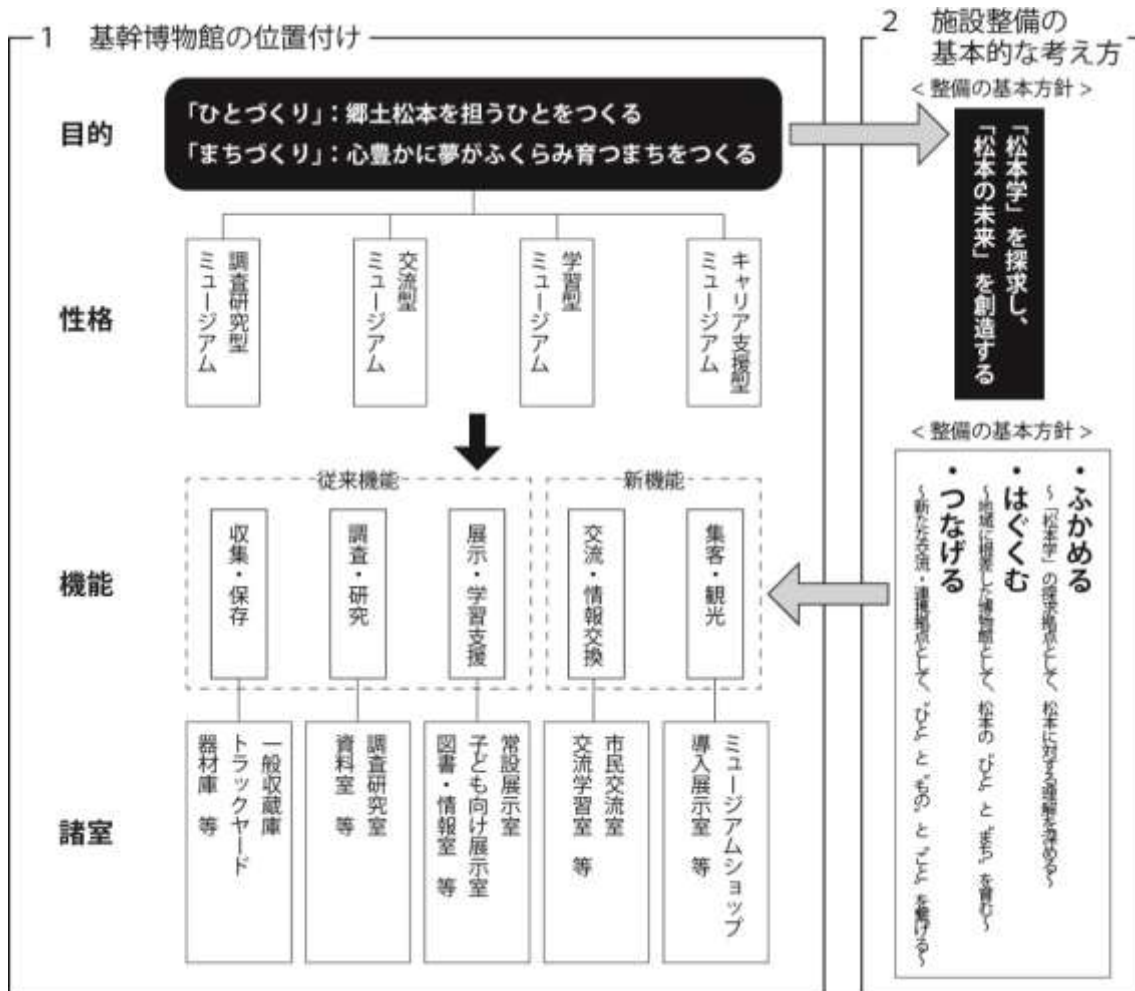
来館するすべての人たちに不便を感じさせず、松本の魅力を誤りなく伝えるためのユニバーサルデザイン化が求められています。

第2章 松本市立博物館の現状と課題

第3章 施設整備方針

～松本市立博物館開館 200 年を見据えて～

【図2 基幹博物館の位置付けと施設整備の基本的な考え方】



1 松本市基幹博物館の位置付け

(1) 目的

社会の成熟化とともに生涯学習ニーズは高まっており、市民による地域学習・研究活動がさかんに行われています。

地域を知ることは、松本の大切な歴史・文化を探求し伝承していくことのみならず、活力ある地域のあり方を考え、作り出し、ひいては学都・松本の輝きを生み出していくこととなります。「学ぶ」ことが日常生活の中に自然に溶け込むことは、市民一人ひとりの人生の質を高め、生きがいにもつながります。

したがって、松本の明日を考える上で、郷土を知り、考え、つくり出していく人材を育むことは何よりも大切です。

そのため、松本市立博物館は過去110年を超える活動実績と成果を継承しながら、地域文化の振興・育成を力強く進め、郷土松本を担うひとをつくる「ひとづくり」と、心豊かに夢がふくらみ育つまちをつくる「まちづくり」を支え・助ける、松本オリジナルの博物館を整備します。

「ひとづくり」「まちづくり」

郷土松本を担うひとをつくる

- ・郷土松本の<人><歴史・文化><自然>を理解するひと
- ・郷土松本に愛着と誇りを持つひと
- ・郷土松本の未来を考え、行動するひと

心豊かに夢がふくらみ育つまちをつくる

- ・明日を担う子どもの生きる力を育むまち
- ・いつでも楽しく学べる場と機会を提供し、人と人がつながるまち
- ・多様で特色ある豊かな文化芸術が花開くまち
- ・熱気と活気にあふれ輝くまち

(2) 性格

基幹博物館の目的を達成するために、四つの性格をもたせます。

ア 調査研究型ミュージアム

- (ア) 学芸員が中心となって松本学の調査研究を推進します。
- (イ) 松本市は国宝松本城天守を始めとする歴史遺産や、伝統行事、祭礼など無形文化財を含む民俗文化が豊かに継承されています。この財産を調査研究するとともに、多様な成果を蓄積し、市民と一体となって次世代へ確実に伝承します。

イ 交流型ミュージアム

- (ア) 市民が集い、活動を通して交流する博物館とします。地域間交流、世代間交流など、人と人との心が通う交流を実現します。
- (イ) ホスピタリティにあふれたビジターセンターとして市民と観光客が触れ合い、理解し合う場とします。
- (ウ) 博物館の利用法、博物館での過ごし方・楽しみ方などについて気軽に相談できるようにします。博物館を熟知した“コンシェルジュ”のような人材を充てて適切なアドバイスを行います。

ウ 学習型ミュージアム

- (ア) 市民誰もが楽しみながら継続的に学習活動を行う場とし、自分自身で学習テーマを設定して行う学習を支援します。

- (イ) 松本学の探求や松本まるごと博物館の活性化を図るため、大学等研究機関による協力・支援体制を構築します。

エ キャリア支援型ミュージアム

- (ア) 個人のキャリア^(注1)に資する学習・交流の場であるとともに、達成感や生きがいを感じ、自己実現に向けた歩みを進められるよう支援します。
 - (イ) 博物館が持つ資源、場、人、事業を動員し、市民の地域活動の支援や地域での課題を解決する支援をします。
 - (ウ) 他の博物館や生涯学習施設、学校などと連携し、習得した技・知恵・ノウハウなどを「ひとつづくり」、「まちづくり」に還元します。
- (注1) 人の生き方・生きがい、自己実現の方法、生きることや働くことの価値付けのこと。

(3) 機能

博物館はこれまで一般的に、「収集・保存」、「調査・研究」、「教育普及」の三つの機能を持つものとされてきました。

平成19年に文部科学省の審議会が提出した「新しい時代の博物館制度の在り方について」では、これからの博物館は人々の学習要求の多様化・高度化や社会の進展・変化に対応し、更に積極的な役割を果たすことが期待されているとし、博物館活動の基盤を強化し、交流、市民参画・連携する学習支援機関としての役割の充実がこれからの博物館の望ましい在り方であると記しています。

また、同年には観光立国推進基本法も施行され、地方自治体の基本計画も観光を地域政策の核に位置付けるものが増えてきています。人口減少社会を迎えたことにより本格的に交流人口の拡大の必要性が指摘されており、地域資源を保存し掘り起こしてきた博物館には、観光ニーズに応える拠点としての役割も求められるようになっていきます。

現博物館の課題の解消や、こうした博物館に対する社会状況の変化に対応し、基幹博物館の目的を達成するためには、これまで博物館が担ってきた従来機能を充実させた上で、更に新たな機能を設ける必要があります。

ア 基幹博物館の従来機能

現博物館が備える従来機能として、「収集・保存」、「調査・研究」、「展示・学習支援」の三つの機能が挙げられます。

- ・ 収集・保存機能では、資料を守る適切な環境と設備の充実を図ります。
- ・ 調査・研究機能では、研究活動を支える環境と設備の充実を図ります。

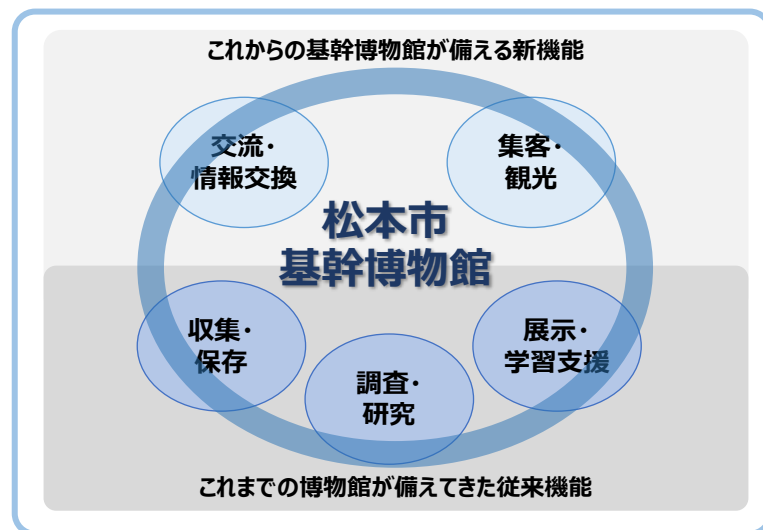
- ・ 展示・学習支援機能では、「松本学」の探求拠点としてふさわしい展示とともに、市民の学習を支援する環境と設備の充実を図ります。

イ 基幹博物館の新機能

基幹博物館では、新たに「交流・情報交換」、「集客・観光」の二つの機能を持たせて、時代のニーズに即した博物館の実現を図ります。

- ・ 交流・情報交換機能では、博物館サポーターなど市民のための活動場所を設けるなど、市民協働の拠点とします。
- ・ 集客・観光機能では、博物館オリジナル商品や松本の伝統工芸品等を扱うミュージアムショップなど、市民が気軽に立ち寄れる場を設けます。また、導入展示室で現在の松本の歴史・文化・自然を紹介することで、市内周遊に役立つ情報提供の場としての機能の充実も図ります。

【図3 基幹博物館の機能構成図】



2 施設整備の基本的な考え方

松本市基幹博物館の目的を実現するために、下記のコンセプトと基本方針を定め、整備を進めます。

(1) 整備のコンセプト

「松本学」を探求し、「松本の未来」を創造する

先人が築き守り育ててきた「いいまち・松本」に暮らすことの誇りを知り・考え・共有し（松本学の探求）、その誇りを次世代に引き継ぐ（松本の未来の創造）責任を持って、施設の整備に取り組みます。

(2) 整備の基本方針

ア ふかめる

～「松本学」の探求拠点として、松本に対する理解を深める～

市民による活発な地域学習・研究活動の受け皿として、それらの活動を深めます。

松本の大切な歴史や文化を探求し伝承するとともに、活力ある地域の在り方を考え、つくり出します。

三ガク都・松本の輝きを生み出していきます。

松本への理解を深めることで、市民の郷土に対する愛着や誇りの醸成につながる施設整備を目指します。

イ はぐくむ

～地域に根差した博物館として、松本の“ひと”と“まち”を育む～

郷土松本の〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉を理解し、郷土松本に愛情と誇りをもち、郷土松本の未来を考え、行動するひとを育みます。

いつでも楽しく学べる機会を提供し、子どもたちの生きる力を育みます。

多様で特色ある豊かな文化芸術が花開くまち、熱気と活気にあふれ輝くまちの実現につなげます。

ウ つなげる

～新たな交流・連携拠点として、“ひと”と“もの”と“こと”を繋げる～

個人のキャリアに資するための学習の場として、達成感や生きがいを感じ、自己実現に向けた歩みを支援します。

松本まるごと博物館の中核施設として、他の市内の博物館との連携を図り、市内博物館の活動や成果を発信して、市内博物館の活性化につなげます。

「松本学」を中心とした市民同士の交流の促進、また市民と観光客との交流も生み出していきます。

市内全域の歴史や文化の魅力を発信し、市内散策・観光へ誘います。

3 建築設計に当たって

(1) 敷地条件

所在地	松本市大手3丁目
敷地面積	3,868 m ²
用途地域	商業地域
容積率	400%
建ぺい率	80%
防火地域	防火・準防火地域
高さ制限	松本市景観計画では29.4mとされるが、地元協定（お城周辺地区第2ブロックまちづくり協定）により18m

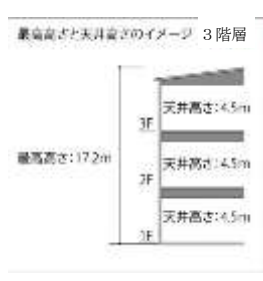
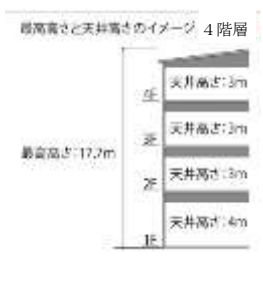
(2) 施設規模

建設する施設の規模（延床面積）は、以下のとおりとします。

施設規模	7,000 m ² ～8,000 m ²
------	--

また、施設の想定される垂直方向の広がり（施設階層）については、松本市基幹博物館施設構想策定委員会において、3階層と4階層の2案について検討し、以下のとおり整理しています。

なお、地階については原則として設けないこととします。

	模式図	メリット	デメリット
3階層	 <p>最高高さ:17.2m 天井高さ:4.5m 天井高さ:4.5m 天井高さ:4.5m</p>	<ul style="list-style-type: none"> 垂直方向の移動が少なく、来館者動線、管理動線、資料動線ともに効率的となる。 建築の最高高さの中でも十分な階高の確保が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 水平方向の移動が大きい。 埋蔵文化財の発掘調査範囲が増加する。 広場面積が減少する。
4階層	 <p>最高高さ:17.2m 天井高さ:3m 天井高さ:3m 天井高さ:3m 天井高さ:4m</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水平方向の移動が少ない。 埋蔵文化財の発掘調査範囲が減少する。 広場面積を拡大することが可能 	<ul style="list-style-type: none"> 建築の最高高さにより、天井高さが3m程度しか確保できず障害となる。 垂直方向の移動が多く必要となり、来館者動線、管理動線、資料動線ともに非効率的となる。

(3) 建設における留意点

基幹博物館の目的を実現し、備えるべき機能を十分に果たすために、以下の点に留意し建築設計を行います。

ア 博物館建設全体に係る設計の留意点

- ・ 博物館の整備は、当該地区の今後のまちづくりの指針を示した、松本城三の丸地区整備基本方針に沿って、整備を行う。
- ・ 自然エネルギーの利用、消費エネルギーの節約に努め、建物の生涯コスト（建設費用及び開館後の管理運営費用）の削減に心掛けるとともに、環境に配慮した施設設計を行う。
- ・ 建物は、国宝松本城天守など歴史的建造物が集積する本市の歴史的特色を踏まえるとともに、松本市景観条例（平成20年条例第3号）、お城周辺地区第2ブロックまちづくり協定に則り、三の丸地区の落ち着いた風情を損なわないように、周辺の都市環境との調和に配慮する。
- ・ 建築デザインは、デザイン自体が魅力を持ち続け、将来のまちづくりを先導し、松本らしさとして次代に残るようなデザインとする。
- ・ 建築計画に当たっては、外観だけでなく建物内部から屋外を見た際の景観にも配慮する。
- ・ 基幹博物館として、文化庁の指針、基準等に基づいた設備等を整備し、市民の宝を次代に確実に引き継ぐとともに、天災・人災に対して十分に備えた安全・安心な博物館を整備する。特に、震災に対しては免震構造あるいは免震装置などの導入を検討し、災害時には市民・利用者・観光客などの一時的な退避スペースとして活用できるとともに、近隣博物館等の資料の一時保管場所となることも視野に入れ、堅牢な施設と空間の確保を念頭に設計を行う。
- ・ 学芸員の調査・研究の蓄積を、市民も自由に活用できる部屋を設け、市民が利用しやすい、開かれた博物館となる設計を行う。
- ・ 基幹博物館の目的を達成するための効果的手法の一つとして、各機能の中でデジタルコンテンツ^(注1)を導入する。
- ・ ユニバーサルデザインにより、障害者、高齢者、子ども、外国人を含むすべての人が等しく利用できる施設となるよう配慮する。
- ・ 市民が気軽に普段着で立ち寄り親しみの持てる建築となる設計を行う。
- ・ 駐車場については、建設予定地が松本市次世代交通政策実行計画（平成27年）で自動車に過度に依存しないまちづくりの重点取組地区となっていることなどを踏まえ、周辺駐車場の利用を前提に、

原則として設けない。

(注1) デジタルデータで表現された文章、音楽、画像、映像、データベース、又はそれらを組み合わせた情報の集合

イ 構造設備に係る事項

(ア) 構造

- ・ 建物は、耐火・耐震構造とする。
- ・ 建物に地下部分を設けた場合は、底盤に防水措置を施し、外壁の防水措置は地下部分だけではなく地表面よりやや上まで施す。
- ・ 陸屋根の場合には完全な防水措置を施し、排水口の掃除などの維持管理が容易に行えるように考慮する。
- ・ 博物館施設が同一の建物内で他の施設と併設して設置される場合は、建築上、博物館施設の防火・防犯区画を画然とし、他の施設部分と隔絶する。また、博物館施設専用の出入口を設け、作品・資料等の搬出入経路が明確で、防火・防犯上に支障のないようにし、空調・電気・消火設備等が独立して機能するよう設計する。
- ・ 博物館施設が同一の建物内で商業施設と併設して設置される場合は、上記事項を充足するとともに、文化的展観を行う専用施設として商業施設と隔絶し（避難通路を除く。）、出入口は展示施設の専用口とする。
- ・ 空調設備は、四季を通じて温度と相対湿度を調整できるものを採用し、防火・防犯設備は、人の安全と資料の安全に配慮したものとする。

(イ) 諸室配置

- ・ 文化庁の指針及び基準等を踏まえ、基幹博物館全体の設計に係る留意事項を以下のとおり挙げる。
- ・ 展覧区画、保存区画、管理区画を明確に分ける（各区画の動線に注意する）。
- ・ 収蔵庫・展示室等各部屋の配置に当たっては、博物館資料の移動を安全かつ機能的に行えるように、複雑な動線や段差・傾斜などを避ける。
- ・ 収蔵庫・展示室は、適正な保存環境が保てる部屋とし、外部の環境から影響を極力受けにくい設計とする。また、地下水や日射の影響を避けるため、地階・最上階・南西に面する位置に配置しないことが望ましい。
- ・ 諸室全体の面積を検討する際は、展示室・収蔵庫の広さを十分に確保することを考慮する。

(ウ) 防火・防犯

- ・ 防火・防犯区画は建築上、明確に区分し、他の施設部分と隔絶

させる。

- ・ 資料が置かれる収蔵庫・展示室の防火区画は、個々に完全な独立区画とする。
- ・ 保存区画、管理区画については、防火・防犯に係る管理を十分に行う。
- ・ 消火設備の種類は、展示区画、保存区画、管理区画の環境に合わせて、それぞれに適したものを選ぶ（保存中心の環境か人間中心の環境かによって消火設備を検討）。
- ・ 消火設備は、各区画が独立して機能するようにする。

(エ) 空調照明等設備

- ・ 空調設備は、四季を通じて温度と相対湿度を調整できるものを採用する。
- ・ 空調・電気設備等は独立して機能するようにする。
- ・ 空調系統は、展示室と収蔵庫とに分離する。特に、収蔵庫の内部についても、資料の材質等に応じて分離することが望ましい。
- ・ 収蔵庫の空調は、庫内だけではなく、二重壁内の空気層にも行うように配慮する。
- ・ 騒音・振動を発生する設備機器は、展示室及び撮影を行う予定の部屋の近くには設置しない。
- ・ 資料が置かれる空間には、紫外線除去を施した蛍光灯やLED灯などの紫外線を出さない光源を用い、温度上昇を避けるとともに、資料の材質に応じて調光可能な装置を備える。

ウ 関連する上位計画や法令等に係る事項

下記に掲げる関連計画等、本事業実施に関連する法令等を尊重し整備を進める。

(ア) 上位計画

- ・ 松本市第10次基本計画（平成28年8月）
- ・ 松本市教育振興基本計画（平成24年3月）
- ・ 松本城三の丸地区整備基本方針（平成27年3月）
- ・ 松本市基幹博物館施設構想（平成29年3月）
- ・ 松本市基幹博物館基本計画（平成21年3月）
- ・ 松本市基幹博物館基本構想（平成20年3月）
- ・ 松本まるごと博物館構想（平成12年6月）

(イ) 関連法規

- ・ 建築基準法（昭和25年5月24日法律第201号）
- ・ 消防法（昭和23年7月24日法律第186号）

- ・ 博物館法（昭和26年12月1日法律第285号）
- ・ 建築士法（昭和25年5月24日法律第202号）
- ・ 屋外広告物法（昭和24年6月3日法律第189号）
- ・ 下水道法（昭和33年4月24日法律第79号）
- ・ 水道法（昭和32年6月15日法律第177号）
- ・ 騒音規制法（昭和43年6月10日法律第98号）
- ・ 駐車場法（昭和32年5月16日法律第106号）
- ・ 大気汚染防止法（昭和43年6月10日法律第97号）
- ・ 長野県建築基準条例（昭和46年7月13日条例第40号）
- ・ 松本市中高層建築物の建築に係る良好な近隣関係の保持に関する条例（平成17年12月21日条例第193号）

(ウ) 文化庁指針

- ・ 文化財公開施設の計画に関する指針（平成7年8月文化庁文化財保護部長）

(エ) 適用基準

- ・ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）
- ・ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（最新版）
- ・ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（最新版）
- ・ 建築工事標準仕様書（最新版）
- ・ 建築設計基準（最新版）
- ・ 建築構造設計基準（最新版）
- ・ 建築鉄骨設計基準（最新版）
- ・ 構内舗装・排水設計基準（最新版）
- ・ 建築設備設計基準（最新版）
- ・ 公共建築工事積算基準（最新版）
- ・ 建築数量積算基準（最新版）
- ・ 建築設備数量積算基準（最新版）
- ・ 官庁施設の総合耐震計画基準（最新版）

(オ) その他関連する法令・計画等

第4章 施設機能と諸室

1 収集・保存機能

博物館における資料や情報の収集・保存は、博物館機能の根幹をなすものです。基幹博物館では、次代に残すべき松本市民の宝となる資料や情報を計画的かつ継続的に収集し、適切な環境下で長く保存する、市民の「蔵」として位置付けます。

資料を良好な状態で保存するために、資料管理方針（下表）に基づき、最適な空調設備と消火設備等の整った収蔵庫を設け、資料の材質・状態に応じて適切に管理・保管します。また、限られた収蔵スペースの有効活用を図るとともに、外部の収蔵施設を含め、長期的視野に立った収蔵計画を構築します。

収蔵庫は、外気の影響を受けにくい環境と温湿度管理ができる設備を整備した上で、温湿度管理を別にする必要がある資料は、保管ケース等に収納し調湿剤等による管理をするものとします。

【資料管理方針】

基幹博物館では、地域の遺産を現地で保存し、資源として活用を図る「松本まるごと博物館構想」を踏まえ、また、図書館や文書館、美術館等関連施設との機能分担を図りながら、下記の諸点から資料の収蔵を行います。

- (1) 希少性が特に高い資料
- (2) 温湿度管理が必要な資料
- (3) 基幹博物館の収集・保存機能以外の4機能での展開・活用が期待される資料

なお、資料を保管する場所の環境が一定基準を満たさない場合も、資料の収蔵を行います。

2 調査・研究機能

博物館では、収蔵資料を調査・研究し、その中で得られた学術的成果は、資料の展示解説や講座・講演会事業の中で市民に公開していきます。基幹博物館では、松本の未来を創造する「松本学」の探求拠点にふさわしい充実した調査研究活動を行うため、十分な広さを備えた調査研究室、資料室等の調査・研究活動を重視します。

学芸員のほか、市民協働や大学等の研究機関とも連携して行う十分な広さを備え、かつ設備面でも充実した調査研究室や資料室との調査・研究機

能を整備します。また、事務室と隣接させ、事務機能との密接な連携を可能にします。

更に、収蔵資料のデータベース化と共有化を進め、レファレンスサービスの向上と資料の積極的な活用に努めます。

3 展示・学習支援機能

(1) 展示機能

博物館では、収蔵資料を展示公開することにより、市民が歴史・文化・自然を学ぶ機会を提供します。基幹博物館では、郷土松本を担う「ひとづくり」と心豊かに夢がふくらみ育つ「まちづくり」に寄与する、松本学の探求拠点としてふさわしい展示を行います。

松本市民、松本市への来訪者を対象とし、小学校高学年程度が無理なく理解できる展示内容とします。

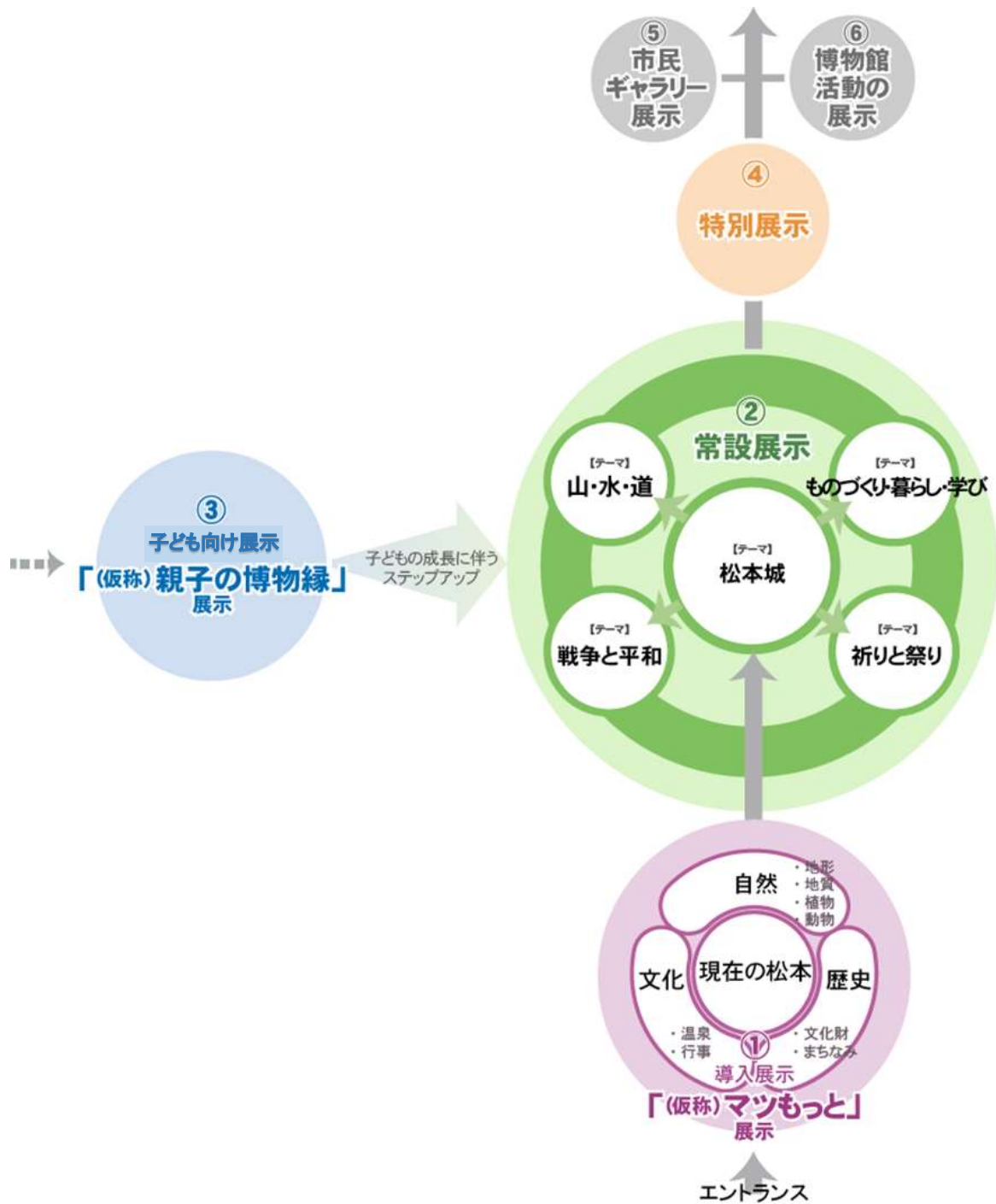
更に、従来の見せる展示から、利用者が疑問を持ち、自ら考え継続的に学び行動する「ひとづくり」、キャリア支援となる展示のあり方を検討します。また、展示とレファレンス機能を連携させることにより、利用者の学びを支援します。

常設展示室、特別展示室に加え、未就学児童から小学校低学年の児童が遊びや体験の中から「発見することの喜び」を感じられる子ども向け展示室を整備します。

現在の松本の歴史・文化・自然を紹介するインフォメーションの場として、導入展示室を整備します。

市民の研究活動成果が展示できるスペースを整備します。

【図4 展示構成図（案）】



【参考】全体展示計画案

施設構想策定委員会において提案した展示案を一例として示したものです。

1 各展示室の基本的な考え方**(1) 導入展示「（仮称）マツもっと」展示**

- ・『松本まると博物館ガイドブック』等の記載内容をベースに、その時々々の松本の今を発信する展示とします。
- ・常設展示の導入展示と位置付けるとともに、まると博物館の紹介も行います。
- ・松本の歴史・文化、自然などの情報に加え、一般的な観光情報も提供します。
- ・各分館の専門分野・特徴を紹介する分館のガイダンスセンターを備えます。
- ・博物館の導入としての魅力を高めるために、大型映像やプロジェクションマッピング等による演出やシンボルディスプレイ等の設置も検討します（ただし、活用に当たっては、情報や機器の更新性に留意）。
- ・基本的な情報は、ジオラマやレプリカを活用しながらグラフィックパネルでの解説を行います。
- ・最新の情報及びその更新性を重視します。

(2) 常設展示

- ・現在の「通史展示」と「民俗展示」に分かれている常設展示から、松本学の対象とする〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉の中から、松本市の特徴をテーマ別に紹介する展示（テーマ展示）を採用します。
- ・松本学を探求する基幹博物館として、融合的（総合的）な展示構成とします。
- ・各テーマでは紹介できない部分については、企画展示や特別展示あるいは分館の展示で対応することとします。
- ・展示更新の利便性を考慮し、テーマごとに展示空間を区画します。また、扱うテーマにより、最適なスペースや区画を検討します。
- ・実物資料に加えて、一部ジオラマ・レプリカ・映像等の展示手法を活用した分かりやすい展示とします。
- ・各展示テーマにおいて、未来に向けた問いかけや「ひとづくり」、「まちづくり」にかかわる投げかけをします。

(3) 特別展示・企画展示

- ・「特別展示」として、比較的大規模な展示や他館との共同展示、全国巡回展、共同調査・研究の成果発表展などを開催します。
- ・「企画展示」として、比較的小規模、館独自の展示、常設展示の一部を更に深める展示、学芸員の調査・研究成果を公開する展示、館のコレクションや特に貴重な収蔵品等を特別公開する展示などを行います。
- ・「特別展示」として大型の全国巡回展等を開催する際は、大中小すべての特別展示・企画展示室を利用します。

【参考】全体展示計画案

- ・ 会場準備～展覧会期間～撤収期間以外の使用しない期間について、空間の広さを活かした副次的な利用を想定した設備設計を行います。

例：被災文化財（隣接自治体含む）の仮保管等

(4) 市民ギャラリー展示

- ・ 来館したことが無い市民の来訪のきっかけづくりとして必要ではあるが、建設予定地の周辺の状況（M ウィングや松本市美術館の貸室）や文化財 IPM 管理の観点から、共用スペースを活用し行うものとします。
- ・ 市民ギャラリー展示スペースでは、館蔵資料の展示は行わず、市民が主体的に利用できるものとします。
- ・ 基本計画の位置付け（博物館と連携した活動の成果発表）に沿いながら、児童・生徒・学生層の博物館利用のきっかけづくりとして、学校活動の受皿としても活用します。

(5) 子ども向け展示「（仮称）親子の博物縁（ハクブツエン）」展示

- ・ 広く市民を対象とし松本市が進める子どもにやさしいまちづくり、子育て支援に寄与するため、「静かに鑑賞しなければならない」と認識され、これまで利用を敬遠されがちだった子育て中の親子も楽しめる空間として設置します。
- ・ 子どもに「発見する」「気づく」喜びを伝え、「学ぶ」楽しさを体感してもらうなど、キャリア支援につながる展示とします。
- ・ 子どもの成長に合わせて、「親子の博物縁」から常設展示室、特別展示室へとステップアップを図る、子どもの成長とともにある展示を目指します。
- ・ 親子の対話を促し親子で一緒に過ごせる、子育て支援（親支援）の場としての利用にも配慮します。
- ・ 展示全体の対象年齢より年少の、未就学児～小学校3年生（低学年）程度を対象とします。

[展示内容（例）]

- ・ 松本の歴史的な特徴や文化遺産をモチーフにした遊びや体験（城下町迷路、仁王尊股ぐり等）
- ・ 昔のくらし導入編（黒電話・柱時計・遊び（コマ、百人一首、メンコ等））
- ・ 県産材（できれば市内）を使った積み木
- ・ 貸衣裳（貫頭衣、陣羽織、甲冑、婚礼衣装、消防、警察など）等

(6) 博物館活動（博物館の日常）展示

- ・ 博物館が何をやっているところで、どういう人が働いているか「見える化」し、市民理解を得やすい環境をつくため、これまで展示機能として位置付けられていない諸室を展示空間として位置付け、「何をやっているのかわからない」から「何かやっている」へ転換を図ります。
- ・ 収蔵庫と事務室の一部を活用して実施します。
- ・ 収蔵庫では、庫内の一部の壁にのぞき窓を設け、収蔵状況が見えるようにするなど、収蔵庫

【参考】全体展示計画案

の“見える化”を図ります。

- ・ 庶務・事業（学芸）担当ともに、職員の様子が来館者からうかがえるようにすることが望ましいですが、事務室等の見える化はセキュリティ上や光熱費コスト上の観点を十分に検討した上で実施するかを検討します。なお、レファレンスは、図書・情報室で行います。

2 常設展示のテーマ案

分館や松本城天守の展示と関連性を持ちながら、分館を始め松本まると博物館へ誘うことを視野に入れて下記の展示を行います。

(1) 松本城

- ・ 松本城を多彩な視点で紹介し、その魅力を発信します。
- ・ 松本城前史（小笠原氏城館群）から藩政期、廃藩置県を経て現代までの時代を取り扱います。
- ・ 藩主による政治的「まちづくり」の視点から、城下町の成り立ちや発展を紹介します。
- ・ 現代まで残された松本城を、文化財保存の視点、未来に向けた「まちづくり」の視点で紹介します。

[展示内容（例）]

- ・ 山城（小笠原氏城館群）
- ・ 歴代松本城藩主とその治世
- ・ 城下町の成り立ちと発展
- ・ 筑摩県博覧会と松本城の保存運動

(2) 山・水・道

- ・ 「自然と人とのかかわり」を中心に、古代から現代までを取り扱います。
- ・ 時代により移り変わった「道」を通して、人やもの、情報の交流や流通の様子を紹介します。

[展示内容（例）]

- ・ 山の恵み（考古）、古代の牧や窯
- ・ 近代登山と人々の営み
- ・ 井戸や水道（江戸の木樋、近代水道設備の普及、城山の配水場）
- ・ 河川運搬、川除普請、河川の氾濫と治水
- ・ 古代木曾路、東山道、街道（善光寺、糸魚川、保福寺、野麦等）、通船、鉄道などの移り変わり

(3) 戦争と平和

- ・ 軍都として発展した歩みを中心に近現代を取り扱います。
- ・ 戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝えます。

【参考】全体展示計画案

[展示内容（例）]

- ・ 軍都の前史（蚕糸業の発展・衰退）と発展（陸軍歩兵第 50 連隊、軍需工場疎開、陸軍松本飛行場）
- ・ 明治三十七、八年戦役記念館（松本市立博物館の前身施設）と日露戦争
- ・ 浅間温泉と特攻隊

(4) ものづくり・暮らし・学び

- ・ 古代から現代までの時代を取り扱います。
- ・ ものづくりの展開と暮らしの移り変わり、民間の中で育まれた学びの気質を紹介します。

[展示内容（例）]

- ・ 押絵雛、手まり、足袋、みすず細工、民芸・クラフトなど松本の特産
- ・ 町屋、農村、山村の暮らし
- ・ 寺子屋、話をきく会、郷土教育運動

(5) 祈りと祭り

- ・ 原始から現代までの時代を取り扱います。
- ・ 先人が祈りの対象にしたものや、人生儀礼や年中行事、祭礼の移り変わりを取り上げ、松本の精神文化を紹介します。

[展示内容（例）]

- ・ 原始から現代までの信仰
- ・ 国重要文化財孔雀文磬
- ・ 七夕人形など国重要有形民俗文化財コレクション
- ・ 路傍の石仏
- ・ 現代人と習俗

(2) 学習支援機能

博物館では、収蔵資料を展示公開する以外に、講座・講演会・対談会・ワークショップなど、様々な手法で市民の学習を支援しています。基幹博物館では、学習支援機能を博物館の担う「ひとづくり」のための重要な機能と位置付け、少人数のワークショップから大規模な講演会まで、市民が主体となり気軽に利用できる学習環境を整備します。

講師による情報提供が主になる講演会や、比較的参加人数が多いイベント（シンポジウムやフォーラムなど）を開催できる場として講堂を、より講師と参加者間のやり取りが緊密なワークショップや講座を開催できる場として交流学習室を設けます。

講堂の収容人数は、150名～200名程度とします。

交流学習室の収容人数は、60名程度とします。

松本学の探求拠点として、気軽に市民が博物館や松本のことを調べられるよう、館が有する情報を公開する場として、図書・情報室を設けます。

「どこに、誰に聞いたらいいか分からない」状況を回避するため、レファレンス（質問）対応を図書・情報室に集約します。

なお、上記の点を含め、松本市基幹博物館施設構想策定委員会においては、以下の事業・サービスの実施を想定し検討しています。

【参考】実施予定事業・サービス案

施設構想策定委員会において提案した事業案を一例として示したものです。

事業名	事業別定員	回数(/年)	備考
博物館友の会総会	210	1	友の会個人・法人会員210人組の理論値
発掘された松本 報告会	200	1	考古博物館、文化財課と連携
自習室	200	随時	事業のない日は机・椅子を並べ、学習用に開放
博物館資料・製作番組等上映会	～200	土・日 or 随時	松本に関する映像(DVD等)上映 操作・誘導等々の人員対応要す。
分館・他課が主催する講演会	～200	12	考古学ゼミナールなど。月1回程度
巡回・出前講座	150	2	県歴、藩領連携館等、市外の博物館との連携講座
学校見学受け入れ(昔の暮らし等)	～150	不定期	1学年3クラス以上の場合
修学旅行等の受入	100～150	不定期	展示室の見学+学芸員から説明
特別展開催記念講演会	100	2	特別展の規模、開催回数と連動
展覧会講座・講演会	100	2	特別展開催時の関連事業
博物館分館企画展記念講演会	100	4	分館が企画する講演会を開催してはどうか。
シンポジウム・パネルディスカッション	～100	随時 (年1～2回)	
フォーラム	～100	随時 (年1～2回)	
市民学芸員調査成果報告会	60～80	1	
市民学芸員の会総会	65	1	
特別展開連講座	60	1～2	
復活 話をさく会	60	1	9月開催

【参考】実施予定事業・サービス案

事業名	事業別定員	回数(/年)	備考
講演会・対談会・資料解説	～60	3	
勸館楽学対談	30～60	4	4季開催
松本藩領ミュージアム講演会&見学会	50	3	一般参加者40名+博物館職員他10名
所蔵資料スライドショー	～50	土・日 or 随時	操作・誘導等々の人員対応要す。
昔の暮らし(小学生対応)	40	随時	学校等の連携事業 2クラス以下の場合
市民学芸員ウォーキング講座	30	6	5名×6グループ 街歩き+WS
市民学芸員の会 研修会	30	3	市民学芸員1/2出席想定
分館出張(体験)講座	30	6	化石レプリカ作りや勾玉作りなど
学芸員松本モノ語り	30	4	4季開催
学芸員の仕事体験講座	30	4	梱包体験や、パネル切りなどの体験を行う。
七夕人形づくり講座	30	2	七夕の時期にあわせて開催
制作体験	30	6	みずぎ細工・手まり・押絵簾など、博物館展示品に関するもの制作体験講座
昔の遊び体験	30	4	世代間交流をはかる
年間連続講座	20	12	年度ごとにテーマを設け、1年かけ見識を深める。
博物館友の会例会	20	12	友の会理事16名+事務局3～4名
友の会部会活動	20	30	古文書部会、環境歴史部会、刀剣部会など 10～15名
エムの会例会・博物館ニュース発送作業	20	6	エムの会会員14名+博物館職員4～6名
市民ワークショップ	～20	4～10	1回あたりの開催日数により年間実施回数も変化
学芸員モノの見方講座	10～20	6	2ヶ月に一回開催。学芸員持ち回り(分館含む。)
諸会議・打合せ	10～15	随時	業者打合せや友の会エムの会市民学芸員の会の打合せ(10人以上の場合)
特別展周知印刷物発送	10	2	博物館職員4～6名+α
年中行事サービス	10	4	エムの会会員6～7名+博物館職員2～3名
市民学芸員の会(ウォーキング)	10	6	説明者控室
市民学芸員の会 部会別会議	～10	～4	
市民学芸員の会 ボランティア解説	～10	随時	資料を広げての説明で使用
市民学芸員の調査、打合せ	～10	随時	
友の会部会活動、打合せ	～10	随時	
市民学芸員の会(展示解説)	6	100	説明者控室
楽ちん見遊会打合せ	4	10	
パソコン・データベースの利用	2～3	随時	検索用パソコンを設置 有料データベースを購入し、来館者へ提供
コピーサービス	1～2	随時	コピー代は利用者負担。要対応職員配置
視聴覚機器の持込み利用サービス	1～2	随時	旧メディア(ビデオ、カセットなど)閲覧用の機器を設置する。 原則は館蔵資料利用のみとするが、有料で持込み利用を可能とする。
レファレンスサービス	1	随時	答えを教えるのではなく、調べ方を教えるサービス 要対応職員配置
図書の閲覧	—	随時	館蔵図書の利用
視聴覚資料の利用	—	随時	館蔵視聴覚資料の利用。職員へ申請が必要
大型資料受入、調査	—	—	館収蔵資料や寄贈案件の資料を見る。
作品展示	—	随時	制作した作品の展示・事業紹介
資料受入、調査	—	随時	館収蔵資料や寄贈案件の資料を見る(大型資料)
県内外博物館視察、資料対応	—	随時	対外的な対応

4 交流・情報交換機能

基幹博物館では、従来の展覧会や講座・講演会などの個人レベルの展示・学習支援に加えて、交流・情報交換機能の充実を図ります。利用者の博物館での学びが「ひとづくり」につながり、博物館で学ぶ人々の交流が展開することで「まちづくり」の推進につながります。

博物館サポーターなど市民のための活動場所や博物館による定期的な活動発表の場を設けるなど、基幹博物館の目的を実現するための市民協働の拠点とし、市民が気軽に立ち寄れる市民交流室を設けます。

5 集客・観光機能

基幹博物館では、従来のように博物館利用者だけでなく、市民や観光客の誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気醸し出す場を設けるなど、快適性を重視します。人の集まりとそこで生まれる交流は「まちづくり」の拠点ともなり、これが中心市街地の賑わいの創出につながります。

博物館オリジナル商品や松本の伝統工芸品等を扱うミュージアムショップを設け、また、導入展示室で現在の松本の歴史・文化・自然を紹介することで、市内周遊に役立つ情報提供の場としての機能の充実も図ります。

6 共用スペース

前記1～5のほかに、展示観覧者を含め、全ての来館者が使用する可能性がある諸室を整備します。

7 施設管理

博物館の管理運営に必要な諸室を整備します。

なお、博物館の運営に関する諮問機関として松本市博物館協議会を設置しており、協議会において、展開する事業等を踏まえながら、並行して協議を進めます。

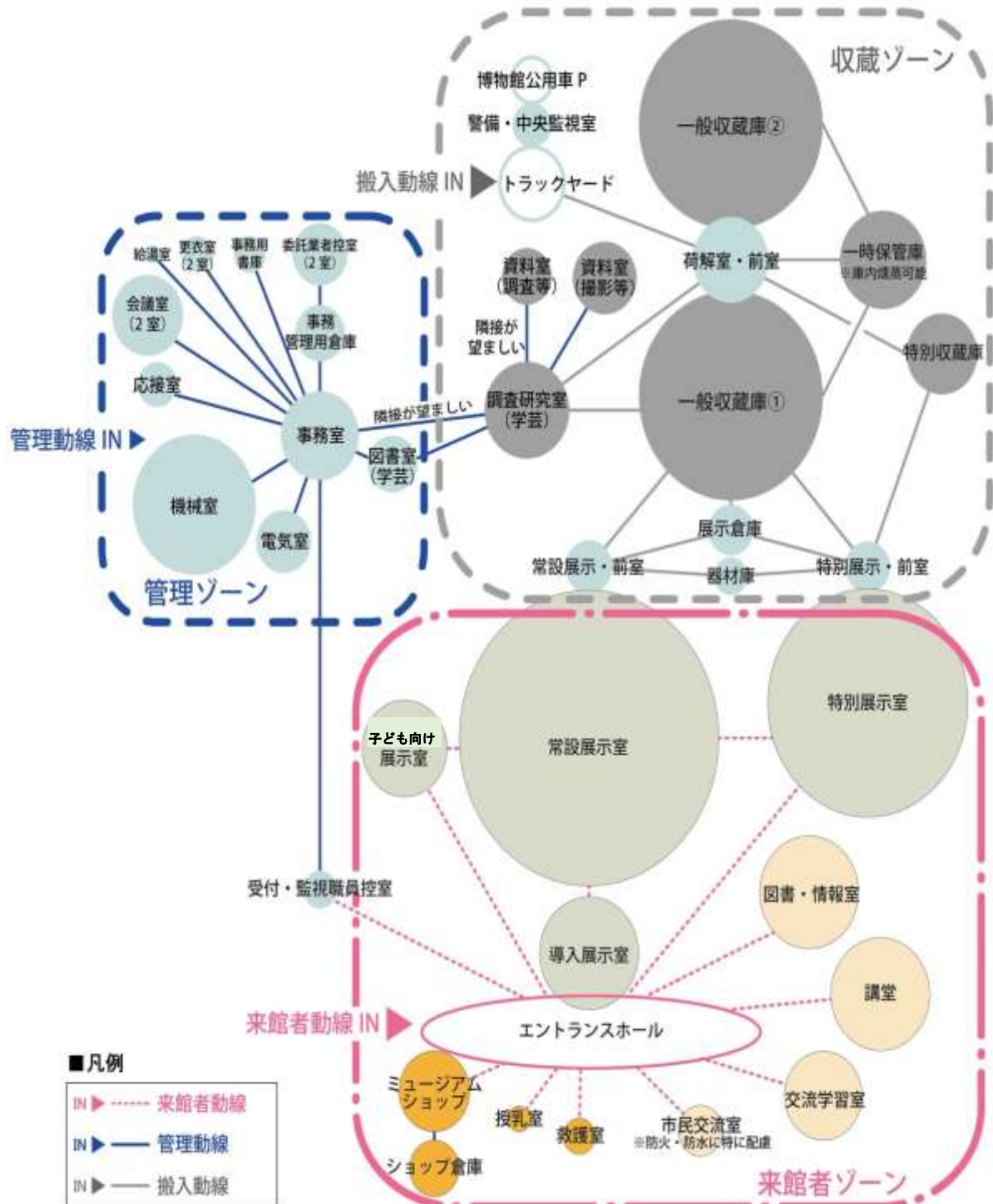
8 付帯施設等

身体障害者用駐車スペース、駐輪場などを整備します。
ユニバーサルデザインに対応した施設整備とします。

9 基幹博物館の諸室構成

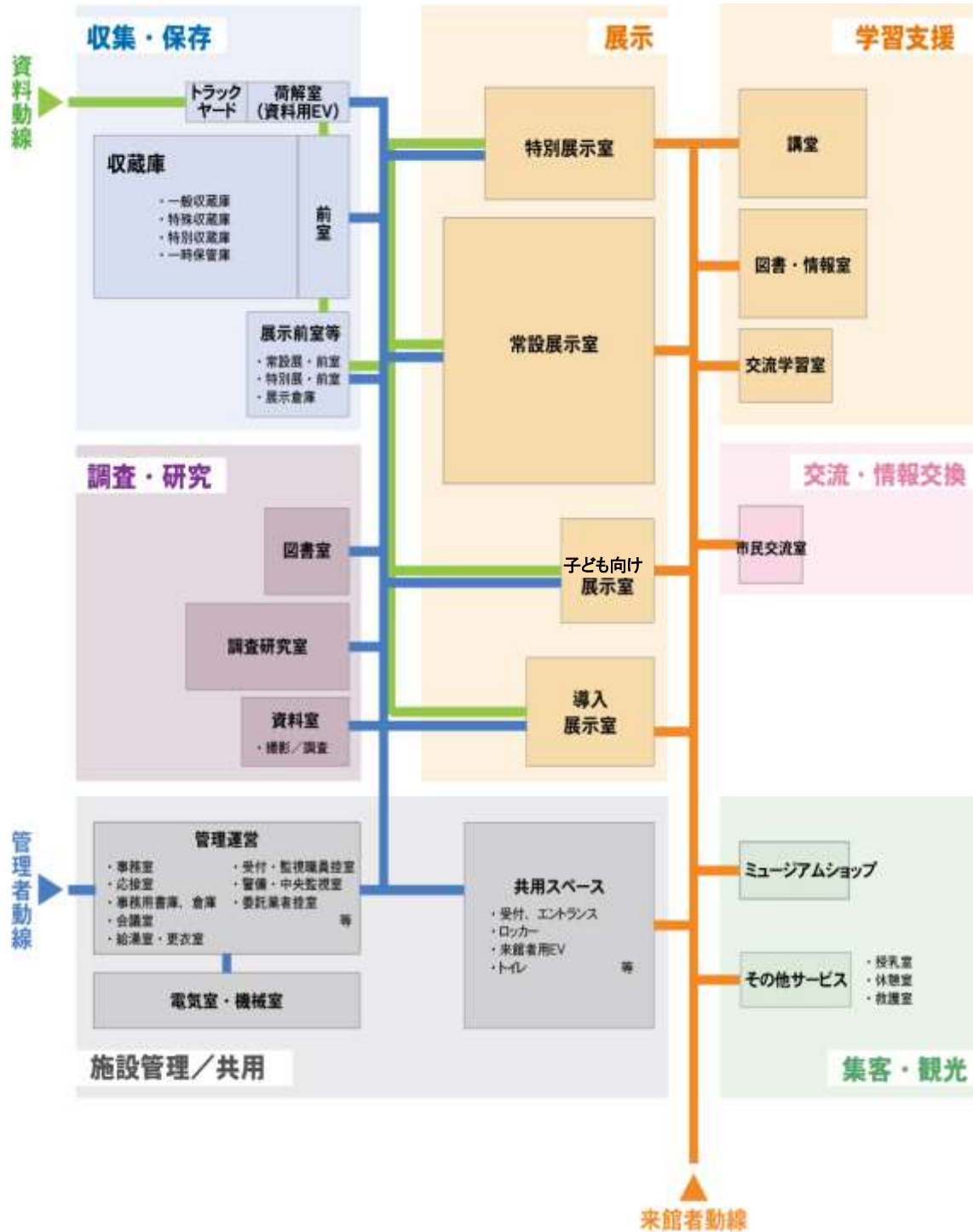
(1) 機能・諸室構成 (概念図)

【図5 基幹博物館の機能図 (案)】



※ 本図は諸室間の関係性を示したものであり、施設内の平面配置を規定するものではありません。

【図6 基幹博物館の全体構成（案）】



※ 本図は諸室間の関係性を示したものであり、施設内の平面配置を規定するものではありません。

(2) 諸室・設備一覧

機能	室名	機能別 面積	主な用途
収集 ・ 保存	一般収蔵庫①	1,940 m ² 程度	・ 温湿度管理が必要な資料を収蔵
	一般収蔵庫②		・ 温湿度の別管理が必要な資料は、個別ケースで管理
	特別収蔵庫		・ 借用資料等の保管及び展示期間中の梱包材の保管
	一時保管庫		・ 寄贈資料の一時保管、庫内燻蒸可能な仕様とする。
	トラックヤード		・ 資料の搬出入を行うトラックの出入口スペース ・ 10トントラック（美術品運搬専用車）の出入が可能な仕様とする。
	荷解室・前室		・ 資料の開梱、梱包。高所作業車や台車類等の保管 ・ 前室は庫内の環境を安定させる部屋
	エレベーター		・ 来館者用と区別した、資料搬出入用エレベーターの設置
	常設展示・前室		・ 常設展示替え資料・可動ケース等の保管
	特別展示・前室		・ 特別展示替え資料・可動ケース等の保管
	展示倉庫		・ 可動展示ケース、展示資材等の保管
	器材庫		・ ワイヤーワゴン、照明ワゴン等の保管
調査 ・ 研究	調査研究室	280 m ² 程度	・ 学芸員の調査研究活動に利用
	図書室（学芸）		・ 調査研究活動用の書庫で、来館者が利用する図書・情報室とは区別して設ける。
	資料室（撮影等）		・ 学芸員の調査研究作業や資料・資材を保管する。 ・ 資料の撮影室を兼ねる。
	資料室（調査等）		・ 特別観覧対応や聞き取り調査などに利用する。
展示 ・ 学習 支援	導入展示室	2,500 m ² 程度	・ その時々の松本の今を発信し、市民や観光客に松本の魅力を伝える。
	常設展示室		・ 収蔵資料を中心に、松本の歴史や文化、民俗などを体系的に伝える。
	子ども向け展示室		・ 松本の歴史・文化、自然をテーマに、遊びや体験の中から「発見する喜び」を未就学児でも感じられる体験展示を提供する。
	特別展示室		・ 特別展示、企画展示を行う。
	市民ギャラリー展示スペース	—	・ 市民の学習・研究成果を発表する展示等を行う。 ・ 共用スペース等を活用する。
	博物館活動の展示	—	・ 博物館の活動自体を展示する。 ・ 収蔵庫や事務室を活用する。
	講堂	560 m ² 程度	・ 大規模な講演会、シンポジウムを開催する。 ・ 民俗行事等の記録映像の放映や自習室としての開放も行う。 (収容人数 150名～200名程度)
	交流学习室		・ 講座やワークショップに利用。小規模な講演会も開催可能 (収容人数 60名程度)
	図書・情報室		・ 市民等が博物館や松本に関する調べ物を自由にできる開架書庫、図書閲覧、図書・資料検索の場として利用(開架 25,000冊) ・ レファレンスサービスを集約する。
交流 ・ 情報 交換	市民交流室		・ 友の会、市民学芸員、ボランティアグループ等、博物館のサポーターが利用・交流する場とする。

第4章 施設機能と諸室

集客 ・ 観光	ミュージアムショップ	270 m ² 程度	・ 来館記念となる商品、博物館のテーマに関する書籍、松本の伝統工芸品の紹介・販売など
	ショップ倉庫		・ ミュージアムショップの在庫商品や什器用の倉庫
	授乳室（赤ちゃん休憩室）		・ 授乳やオムツ交換を行う。
	救護室		・ 館内で気分が悪くなったり、怪我をした来館者等の救護を行う。
共用スペース	トイレ	—	・ 各階に設置
	エレベーター		・ 資料搬出入用と区別した、来館者用エレベーターの設置
	ロッカー		・ 多様な来館者を想定し、大中小など3、4種類程度のロッカーを用意する。ロッカー室の配置場所については、開館時間等を勘案しながら検討する。
	フリースペース		・ エントランス等の空いた空間に椅子・ソファ・畳などを置き、来館者が足を休ませられるような場の設置
	受付		・ 観覧チケットの販売 ・ 来館者に対する簡単な案内など ・ エントランス内に設置
施設管理	事務室	900 m ² 程度	・ 現在の庶務係が事務を行う。
	応接室		・ 来客対応 ・ 講座・講演会の講師の控え室としての利用
	事務用書庫		・ 管理運営に係る業務日誌や諸帳簿の保管
	事務・管理用倉庫		・ 予備の物品（蛍光灯など）や工具・器具（脚立等）、日常的な管理で用いる物品の保管。商品を保管するミュージアムショップ倉庫とは別に整備 ・ 倉庫内に、地域の防災支援の一環とした、災害時常備品の保管の検討
	会議室（2室）		・ 日常的な館の運営等に関する打合せに利用するほか、友の会の理事会など博物館関連団体の会議にも利用 ・ 講座や講演会の講師の控え室としても利用
	給湯室、更衣室（男女別）、トイレ		・ 職員及び関係者用
	博物館公用車駐車場		・ 自動車2台分
	受付・監視職員控室		・ 展示面積等の拡大に伴い、券売とモギリ（チケット確認）の分業化、監視職員の配置等が予想される。直営・委託にかかわらず、現行の諸室では不足が予想される。
	警備・中央監視室		・ 施設の大型化に伴い、防犯カメラや警備システムの設置箇所が大幅に増加することが予想され、そうしたシステムの統御・監視を行う場が事務室とは別に必要
	電気室、機械室		・ 施設の大型化に伴い、両室ともに大型化することが予想される。
附帯施設等	委託業者控室（2室）	・ 施設の大型化に伴い、空調設備の複雑化・専門化が予想され、既存の清掃業務委託に加え、施設設備メンテナンスの業務委託が予想される。	
	身体障害者用駐車場	—	
	駐輪場	—	
	屋外広場	—	・ 利用者の駐輪場
合計		最大 8,000 m ²	

第5章 開館に向けて

1 今後の整備スケジュール

年度	全体工程	建築	展示
平成28年度	施設構想		
平成29年度	基本設計・実施設計	建築基本設計	展示基本設計
平成30年度	埋蔵文化財調査	建築実施設計	展示実施設計
平成31年度	建築工事・展示制作	建築工事	
平成32年度		建築設計監理	展示制作・施工
平成33年度	準備期間	空調運転 空気環境調整期間	空調運転 空気環境調整期間
平成34年度	基幹博物館オープン		

2 博物館整備に伴う留意点

(1) 移転に備えた資料登録作業の推進

基幹博物館への収蔵に備えた収蔵資料の全貌把握と選別など、未登録資料の登録と並行しながら、時間と手間の掛かる作業を早急に進める必要があります。

(2) 市民要望の把握

松本市基幹博物館施設構想の策定に伴い実施したアンケート調査やワークショップなどを今後も継続するなど、更に市民要望の把握に努める必要があります。

開館までの期間は、博物館運営の担い手である市民サポーターの育成期間でもあると捉え、一過性に終わらない市民との協働体制を築くことを念頭に日常的な事業を進める必要があります。

(3) 協働の体制づくり

開館後の協働体制を視野に入れ、市内関連施設、学校団体、大学及び専門研究機関との連携事業を実施します。

(4) 事業費の縮減への努力

松本市が「将来世代のためのハード整備」として行う基幹博物館整備については、積極的に補助金・起債を活用することとします。基本設計・実施設計を進める中で、財源確保の取組みに併せ、施設規模の変更（延床面積縮小・諸室の室数縮小・分棟化など）や整備スケジュールの見直しも検討します。

また、整備事業を進める全ての段階において整備事業費の縮減に努めます。

資料編

1 松本市基幹博物館施設構想策定委員会における、目指すべき博物館についての議論

松本市基幹博物館建設計画の策定に当たっては、松本市基幹博物館施設構想策定委員会（以下「委員会」という。）において、理想とされる博物館づくりのためには、どのような施設を構想すればよいのかを議論いただきながら、諸室要件等を含めた詳細な検討など、技術的な助言を得ながら進めました。

以下、委員会で議論された目指すべき博物館について、紹介します。

(1) 市民主体の博物館

「博物館は誰のためのものか？」は、理想とする博物館の根底の論議です。初回の委員会で議論され、以後の施設構想を検討する中で常に議論の根幹としてきた命題です。委員会では、基幹博物館は松本市民のための博物館であることを第一とし、利用者を松本市民と想定して施設構想を考えていくこととしました。

この市民を第一に考えることは、様々な理由で松本を訪れる人たちをおろそかにすることなく、市民が愛し誇りとするものを訴えることこそが、外から訪れる人々にとっても博物館の魅力になると考えます。

(2) 博物館の役割

「松本市民のための博物館」を委員会で議論する中で、各委員からは博物館が市民に対して果たすべき役割（場）について多くの意見が出されました。

具体的には、「博物館は、自ら学びに行く場所であり、人を案内したくなる場所」、「名刺として使われる博物館」、「まちなかへ誘う入口としての場所」、「地元に戻ってきたいと思えるようにする場所」、「地域に対する自信を与える場所」、「問題解決能力を育むための場所」、「この町と人の歴史を確認できる場所」などがあり、従来の展示を中心とする教育施設を超えて博物館に多くの役割が望まれていることを再確認しました。

2 市民アンケート

(第4回松本市基幹博物館施設構想委員会資料の一部を引用)

資料1-5

基幹博物館整備市民アンケート調査結果

1 調査の趣旨と方法等

(1) 趣旨

松本市基幹博物館施設構想の策定に併せ、基幹博物館整備に関する市民意見や要望を把握し、事業実施の基礎資料とすることを目的とします。

(2) アンケート調査の実施概要

ア 実施主体

松本市教育委員会博物館

イ 実施対象

市内在住、在学、在勤者

ウ 実施時期

平成28年10月19日から11月18日まで

エ 実施方法

調査用紙を市内博物館施設及び市役所本庁舎、35地区地域づくりセンターで配布したほか、松本市ホームページからダウンロード可能とし実施。郵送、直接持参、電子メール、ファックスにより回収

また、子育て世代や学生層の声を積極的に集めるため、市内の公立保育園・幼稚園や中学校、高校、大学に個別に協力を依頼し、回答を得ました。

オ 調査用紙

別紙1のとおり

(3) アンケート調査の周知を実施した主な媒体

ア 広報まつもと

イ 松本市ホームページ

ウ プレスリリース

2 調査集計結果

別紙2のとおり

(1) アンケート回収状況

回収総数：987件（うち、有効回答数：961件、白紙回答数：26件）

(2) 回答者の属性

ア 居住区

(単位:人)

第一	第二	第三	東部	中央	城北	安原	城東
14	19	8	5	25	17	11	9
白板	田川	庄内	鎌田	松南	島内	中山	島立
9	11	30	414	13	16	6	13
新村	和田	神林	笹賀	芳川	寿	寿台	岡田
11	8	10	13	18	15	1	21
入山辺	里山辺	今井	内田	本郷	松原	四賀	安曇
3	20	1	5	21	8	9	9
奈川	梓川	波田	市外	不明	無回答		
0	11	28	83	40	6		

鎌田地区には、鎌田中学校の全校生徒に協力いただいた数を含んでいます。

また、中学生の回答が全体の半数近くを占めています。

イ 年齢(年代) (単位:人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	無回答
535	51	105	73	56	77	62	2

中学生の回答が全体の半数近くを占めているため、10代の回答者数が最も多くなっています。

ウ 性別 (単位:人)

男性	女性	無回答
446	507	8

やや女性からの回答の割合が多くなっていますが、ほぼ半数ずつの割合です。

(3) 基幹博物館整備事業に関する設問とその回答結果

ア 松本市内にある博物館等に行ったことがありますか(複数回答可)。(単位:件)

本館	旧開智学校	民芸館	考古	はかり
567	557	233	176	213
旧司祭館	窪田空徳	旧制高等学校	馬場家住宅	歴史の里
136	146	231	185	216
時計	四賀化石館	安曇資料館	山と自然	高橋家住宅
443	251	55	161	76
市美術館	アカデミア館	山辺学校	科学	鈴木鎮一
519	178	103	100	50
小鳥と小動物	浮世絵	東洋計量史	日本ラジオ	康花美術館
112	141	20	23	16

市内にある博物館のうち、最も来館者が訪れた経験がある施設は、松本市立博物館(本館)であることが分かりました。有効回答の半数以上が訪れた経験がある施設は、松本市立博物館、旧開智学校校舎、松本市美術館の3館に限られました。

松本市立博物館分館の中での来訪経験が多い施設は、旧開智学校校舎、時計博物館、四賀化石館の順となっています。

イ 松本市立博物館には、今まで何回程度行ったことがありますか。

(単位:人)

4回～	2～3回	1回	なし	無回答
187	230	247	282	15

松本市立博物館(本館)に一度でも行ったことがある方は、全体の7割を占めています。最も多かった回答は「行ったことがない」で、全体の3割となりました。

ウ 基幹博物館整備で重要だと思う要素は何ですか(複数回答可)。(単位:件)

収蔵	展示	学習支援	交流	来館者設備	透明性	その他
362	652	339	272	417	506	106

来館者が最も多く目にする場である「展示」を重要だとする方が、全体の6割以上を占めています。一方で、一般の方が目にしにくい「収蔵」を重要とする方

は、4割以下にとどまっています。公共事業あるいは博物館事業の透明性が重要だとする方が全体の5割以上います。

エ 博物館にあれば行きたくなる設備、サービスは何ですか（複数回答可）。

（単位：件）

展示	子ども	学び	ショップ	屋外広場	その他
381	352	434	311	406	112

自由に使える学びのスペースを挙げた方が最も多く、ついで居心地の良い屋外広場、いつも新しい発見がある展示の順に回答を得ています。その他の回答では、中高生からは学びのスペースに関連して、自主学習スペースを挙げる例が多くあります。また、子育て世代の回答では、駐車場の確保を挙げる例が見られます。

オ 基幹博物館整備へのご意見、ご要望をご記入ください（自由記述）。

整備する博物館の外観や実施する事業についての意見を多くいただいています。また、現在地よりも松本城から離れることに対する意見や来館者用駐車場に対する意見、事業費の縮小に対する意見も見られます。

カ あなたが考える「松本市の宝」は何ですか（自由記述）。

松本城という回答が最も多く、関連して城下町の風情・佇まいといった回答も目立ちます。自然に関する回答や人に関する回答も挙げられており、市の施策に関連する回答も見られます。若い世代では、松本山雅という回答が多く見受けられます。

(4) 寄せられた自由意見の詳細

別紙3のとおり

松本市基幹博物館整備事業に関するアンケート

松本市は、長年の懸案であった松本市基幹博物館の整備先を、現在の松本市営松本城大手門駐車場北側敷地一帯とすることを決定しました。

今後も、松本市民の宝を守り次代にその価値を伝え、広く松本の魅力を発信し続ける場所であるために、以下のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

1 回答者属性【記入日時点の状況でご回答ください。】

(1) あなたのお住まいは？（該当するもの一つに〇）

- ・第一 ・第二 ・第三 ・東部 ・中央 ・城北 ・安原 ・城東 ・白板
- ・田川 ・庄内 ・鎌田 ・松南 ・島内 ・中山 ・島立 ・新村 ・和田
- ・神林 ・笹賀 ・芳川 ・寿 ・寿台 ・岡田 ・入山辺 ・里山辺
- ・今井 ・内田 ・本郷 ・松原 ・四賀 ・安曇 ・奈川 ・梓川 ・波田
- ・松本市外 ・わからない

(2) あなたの年齢は？（該当するもの一つに〇）

- ・10代 ・20代 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代以上

(3) あなたの性別は？（該当するもの一つに〇）

- ・男性 ・女性

2 博物館来訪歴【記入日時点の状況でご回答ください。】

(1) 松本市内にある博物館等に行ったことがありますか？（該当するもの全てに〇）

- ・松本市立博物館 ・重要文化財旧開智学校校舎 ・松本民芸館
- ・松本市立考古博物館 ・松本市はかり資料館 ・松本市旧司祭館
- ・窪田空穂記念館 ・旧制高等学校記念館 ・重要文化財馬場家住宅
- ・松本市歴史の里 ・松本市時計博物館 ・松本市四賀化石館
- ・松本市安曇資料館 ・松本市山と自然博物館 ・松本市高橋家住宅
- ・松本市美術館 ・梓川アカデミア館 ・山辺学校歴史民俗資料館
- ・松本市科学博物館 ・鈴木鎮一記念館 ・小鳥と小動物の森
- ・日本浮世絵博物館 ・東洋計量史資料館 ・日本ラジオ博物館 ・康花美術館

(2) 松本市立博物館には、今までで延べ何回程度行ったことがありますか？（該当するもの一つに〇）

- ・延べ4回以上 ・延べ2～3回程度 ・延べ1回程度 ・行ったことがない

【裏面に続きます。】

3 基幹博物館整備（新しく整備する博物館）に期待すること

- (1) 基幹博物館整備で重要だと思う要素は何ですか？（該当するもの全てに〇）
- ・収蔵設備（博物館資料を保管する場所）が充実していること。
 - ・展示が充実していること。
 - ・学習支援設備が充実していること。
 - ・市民同士、市民と観光客など、互いが交流し情報交換ができる場（部屋）や空間が充実していること。
 - ・来館者用設備が充実していること。
 - ・公共施設として、活動の透明性（博物館活動の見える化）や安全性、ユニバーサルデザイン化が実現されていること。
 - ・その他（）
- (2) 新しい博物館は中心市街地に移転し、より市民の皆さんの生活圏に近くなります。博物館では、「ちょっと博物館に行ってくる」と、市民が気軽に何度も来ていただける施設を目指していますが、何があれば行きたくなりますか。（該当するもの全てに〇）
- ・いつも新しい発見がある展示 ・子どもが遊びの中から発見の喜びを感じられる場
 - ・自由に使える学びのスペース ・博物館ならではの商品や書籍が充実したショップ
 - ・居心地の良い屋外広場 ・その他（）
- (3) 基幹博物館整備へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。（自由記述）
-

4 あなたが考える「松本市の宝」について

あなたが考える「松本市の宝」や「松本市の誇り」、あるいは「次世代に伝えたい・残したい松本市の良いところ」は何ですか。場所、もの、人、考えなど制限はありませんので、自由なご意見をお聞かせください（自由記述）

松本市では、このアンケート調査結果が施設構想素案に反映されているか意見交換を行うワークショップを開催する予定です。このワークショップでは、現博物館の内部の見学等も行います。（平成28年12月4日・10日の2日間（各午後半日程度）に分け開催）参加をご希望の方は、以下に記載をお願いします。（両日とも参加可能の方のみに限りま。参加料は無料で、希望者多数の場合は抽選のうえ決定します。）

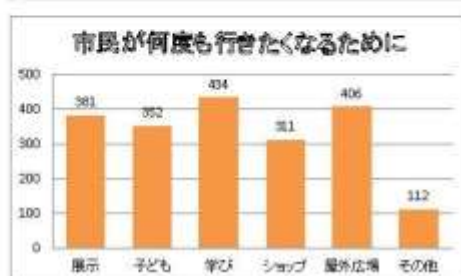
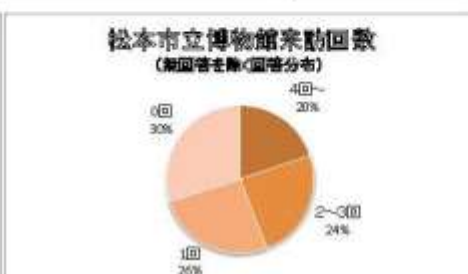
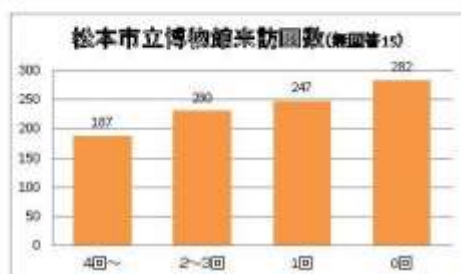
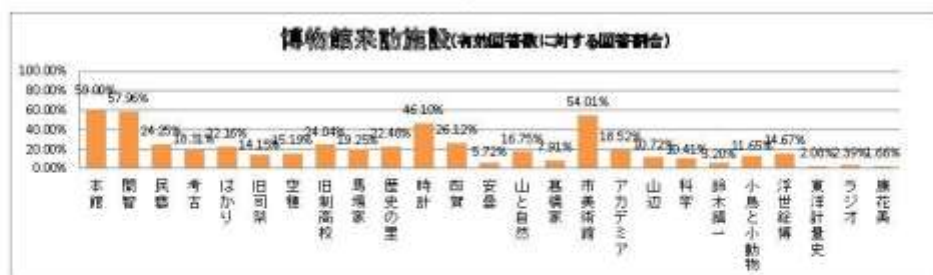
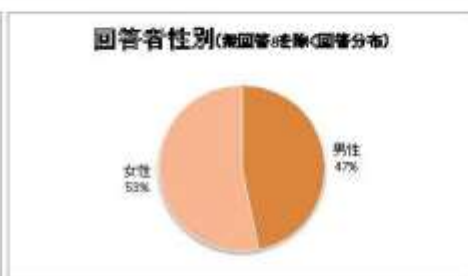
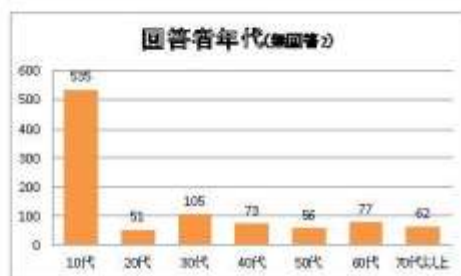
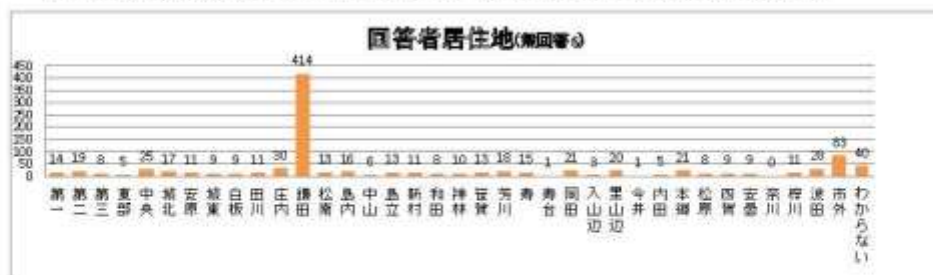
ご住所 〒 _____

お名前 _____ ご連絡先 (TEL) _____

【アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。】

■松本市基幹博物館整備事業に関するアンケート調査 単集計結果
 【調査期間：平成28年10月19日から11月19日まで】 【回答総数987件、うち有効回答数961件】

別紙2

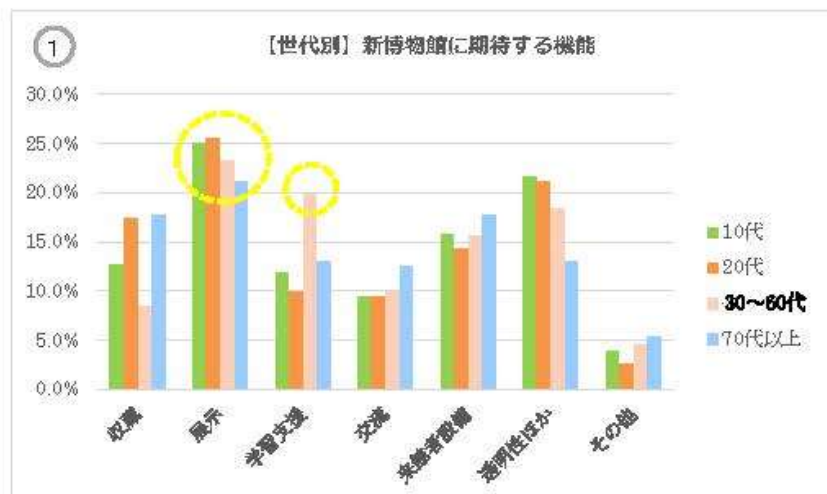


(乃村工務社協力)

■世代別傾向分析

【①世代別にみる、博物館に期待する機能】

全体として「交流」機能より「展示」が充実することへの期待が高く、特に30～60代は、「学習支援」機能に期待していることがわかりました

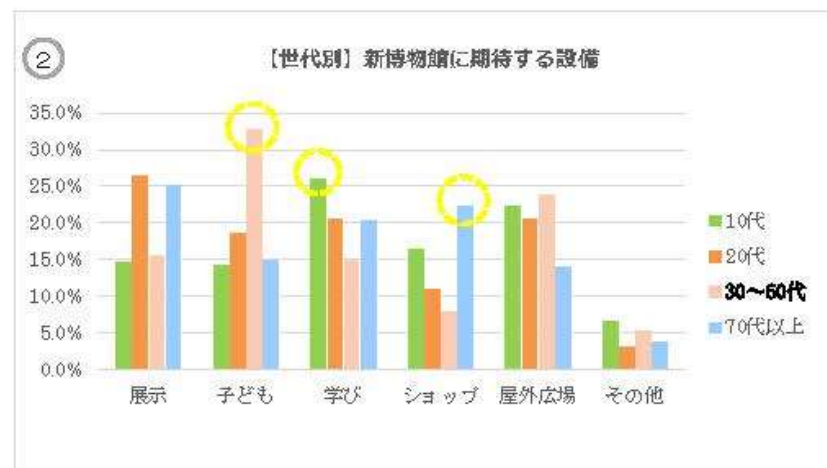


【分析内容】

- ・どの世代も展示の充実には期待が高い。
- ・30～60代の学習支援機能への期待度が他の世代と比較すると特に高い。

【②世代別にみる、博物館に期待する設備】

10代は「学び」、30～60代は「子ども」のためのスペース、70代以上は「ショップ」と、世代でニーズが異なることがわかりました



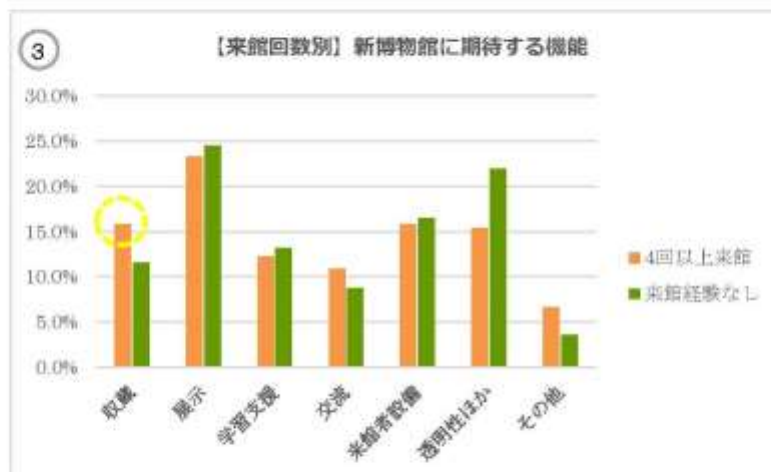
【分析内容】

- ・10代には学びの場へのニーズが高い。
- ・屋外広場へのニーズは、10代20代と30～60代に高い。
- ・30～60代の最大のニーズは子どものスペース。
- ・70代以上の方のショップへのニーズの高さが特徴的。

■来館回数別傾向分析

【③来館回数別にみる、博物館に期待する機能】

来館経験のない方に比べて収集機能への期待が高いなど、
リピーターの方が「博物館の存在意義」に対する理解の深さが見受けられました



【分析内容】

- ・来館経験のない方は、収集機能への期待が低く、透明性ほかなどへの興味が深い。
- ・リピーターの方は、収集機能への期待が高い。

【④来館回数別にみる、博物館に期待する設備】

来館経験のない方は「屋外広場」、
リピーターの方は「展示・ショップ」への期待が高いことがわかりました



【分析内容】

- ・リピーターの方の展示へのニーズが高い。
- ・ショップへのニーズもリピーターの方が高い。
- ・来館経験のない方は、学びの機能や屋外広場といった場への関心が高い。

3 市民ワークショップ

(1) 新しい博物館について みて・考えて・語り合うワークショップ

【開催概要】

1 目的

松本市基幹博物館の構想案を市民に評価していただくことで、構想策定過程への参画機会をパブリックコメントとは別に新たに創出し、新しい博物館への興味関心を高める。

2 参加者募集方法

市民アンケート協力者の中から、参加希望者を募集

3 開催日時

平成28年12月4日（日）、10日（土）の2日間開催

4 内容

1日目 博物館視察、博物館の課題抽出（グループワーク） 参加13人

2日目 新しい博物館に必要な提案（未来新聞の作成）（グループワーク）

市民による構想案の評価 参加15人



161204_A

- ※バリアフリー化
- ※お城に詳しい

収蔵庫

- ※設備が老朽化している
- ※保管品もっと整理・分類できないか?
- ※年数が経過するほど収蔵品が増加するので整理方法を
- ※収蔵品が現状では、その他が同一でなく大きいものもあり内容が分かりにくいので類転品と別にするとよい
- ※収蔵庫と展示室の充実
- ※学芸員室が平せまだ
- ※収蔵品の劣化について研究しているのか?
- ※収蔵庫の中の温度変化は自由にできるのか。同じものは同一に出来るもの異なるものは別あり

展示

三ガク

- ※全体的にアビール出来る展示が少ない
- ※考古の部分うすい（少ない）
- ※三ガクに関するアビールが少ないと思う
- ※水の都のアビールほしい
- ※展示の解図が分かり悪いともっとよい
- ※標路、見せたい物を誘導できているか
- ※民族関係の展示はおもしろい
- ※一般の人の見学コースでは展示が染もくて整理されていてとてもよい
- ※三景への説明もう少しほしい
- ※松本の特徴の表現うすいのでは?

近代
展示追加を

- ※明治、大正、昭和初期の展示物をもっと欲しい
- ※面白いメージ
- ※松本市の明治以前歴史紹介がされている
- ※松本の紹介 時代ごとにまとめて展示

産業展示

- ※松本の代表的な文（例：押し紙）展示と実演できないか
- ※産物に関する展示が少ない
- ※松本の産業説明あってもいいのでは?

他博物館との交流

- ※近辺市町村と交流して博物館同士で連携したほうがよい
- ※博物館同士（松本市内）の話し合いが必要（展示方法、数）
- ※博物館の集約を希望
- ※松本市内の博物館との交流 品物交換
- ※既存の松本のことの紹介がうすい

展示技術

- ※音声を用いた展示説明が欲しい
- ※補助動線も有効的に考えている

161204_B

売店・体験

- ※入口がもっと入りやすいと売店に入りやすい
- ※地域の工芸品の体験等ができると、若い世代に継承されるのでは?
- ※いつも（土日だけでも）体験できる場所があればよい（見ることが主になっている）
- ※ショップが広くて情報がないのはよい
- ※地域の伝統工芸品を扱っているのは技術の継承という面でもとてもよい
- ※売店の芸術品展示棚がよい（松本産直）

収蔵

- ※収蔵品主大切に...
- ※せまい収蔵庫が何方も分かれている
- ※収蔵品の修復等の技術者がいない
- ※たくさんの収蔵品がある

施設

- ※階段が急（高齢者にはキツイ）
- ※洋式トイレが少ない
- ※入館者とそれ以外の人も使える休憩室
- ※所々に自然光が入るスペースがあるのほよい
- ※アルプスが見える お城がみえる
- ※水害対策はどうなっているのか?
- ※2Fの休憩室や路の急か?
- ※外光のとり入れ方について、エントランスホール等資料保管のバランスをどうお考えか?
- ※アルプスの眺めを活かした場所はありますか?（山田景観も資料のひとつ）

展示

- ※音響した資料を展示してほしい
- ※民族関係から今、現代へのつながりもうひとつわかりにくい（行われている場所、音等など）
- ※通史展示をしていることがわかりにくい
- ※他館も含めて各々の展示が市全体から見てどの部分かが分かりにくい（メインの博物館なので）
- ※展示室が分かれている
- ※展示室の天井が低い、展示方法の多様性
- ※展示室に宣伝がない（いつ来ても同じ様なモノ）
- ※映像資料が見られる場所が欲しい
- ※民俗展示はよい（又は民俗資料館だけに!）
- ※通史展示があるのほよい!
- ※展示の照明は保管を考慮されていてよい
- ※露出展示はよい（資料の安全が担保できれば）
- ※実際に手にとり動かせる展示方法
- ※音の事を知っている人の話を記録にしていますか?
- ※清水がひとつの目玉だが、清水に関する資料はありますか?
- ※収蔵品すべての（不可のモノは除く）情報を公開される予定はありますか?

161204_C

GOOD!

展示

- ▶展示会場を年代別に分けて展示している点
- ▶押絵ビナ展示大変良い
- ▶大きなものから小さなものまでたくさん見られる

収蔵庫

- ▶収蔵庫 新しいタイプの室内 振張り、木の壁
- ▶大型のエアコンで
- ▶収蔵品がすぐ取り出しできる整理

BAD

展示

- ▶展示品目多いがどれも内容が浅すぎ
- ▶松本の歴史（近代～現代）の内容が浅い

収蔵庫

- ▶資料の整備がたりない
- ▶「未登録」の資料はあってはいけない
- ▶収蔵で選別を道め一つのテーマで保存の必要なもの以外、大塚に破壊も必要
- ▶重複した資料は大塚に整備する
- ▶収蔵庫の容量が少なすぎる

意見

展示

- ▶「山書コーナー」もう少し多めに（山の木はどこでも扱っているものではない）
- ▶民族展示に産物のくくりを入れたら？
- ▶映像で松本の全体像がわかるように

サービス

- ▶カフェスペースは朝食中心と市民タイムスで見た地元のばや、おやきなども飲物の他に出した方がよい
- ▶博物館関係者のスペース、会議室や展示室の延長でできるスペースがほしい
- ▶新しい博物館で展示や、見る人、観光客に必要な設備を優先して作ってほしい
- ▶子どもたちがものをつくったり勉強できる場所
- ▶子どもたちが行事食をたべられる機会を
新年：甘酒 三九郎：まゆ玉 花祭り：甘茶

駐車場

- ▶大型バスが2～3台とめられる場所がほしい。あるいは大型バスの乗降所がほしい。
- ▶来訪者の駐車に関しては平等であるべき

161204_D

バックヤード

- ▶物の保存には、やっぱりアートライト（美術用LEDライトなんか）
- ▶収蔵の整理と保管がごちゃごちゃ
- ▶未登録の古文書
- ▶バックヤード
- ▶蒸箱の利用、スズハリの木箱はすごいいい
- ▶フッキングのツルシ、フッキバは良い
- ▶城や戦争、民族の資料を大切にすること
- ▶バックヤード、本ウッド、フローリング、良い
- ▶バックヤードは気がとおくなる整理/保管

展示

- ▶見るだけの一方通行の展示方法
- ▶参加型の展示がない
- ▶職員・学芸員の方の充実、人員確保
- ▶木箱など、少し危険では、あたりそう
- ▶中文、フィリピンなど、多国籍対応が欲しいです
- ▶暗さうまく活かした展示に
- ▶とにかく暗い。照明。→年寄は特に
- ▶説明文が読みにくい。フォント・縦横・英文
- ▶石油ストーブでは水分が出そう
- ▶近代以降の歴史が学べる場所に
- ▶御膳持の展示の多さ
- ▶土器展示の創設？
- ▶火筒鼓の常設展示
- ▶狭いスペースに土器～近代までの展示がまばらで分かりにくい
- ▶常設（松本の歴史は良いが浅すぎ）
- ▶松本城の歴史が少ない

ハード

- ▶歩く人、やっぱりバリアフリーにはきびしい。
- ▶床が硬い。カーペットはあってあったり、すべりそう！
- ▶ハード
- ▶お城から近いこと
- ▶昭和40年代の建物の古い良さ

カフェ・ショップ

- ▶カフェ・ショップ
- ▶ドリンクな人も、ぜひ、松本ならではのトマトジュース
リンゴジュース・フサビサイダー
- ▶充実したミュージアムショップに
- ▶休憩室の景観
- ▶2fカフェスペース 最高の展望、お城と北アルプス
- ▶2fカフェスペース 情報、チラシが発立つ
- ▶すてきなカフェが欲しいですね。→カフェスペースを
- ▶ミュージアムショップが強いのでは

2日目 未来新聞（基幹博物館開館初日を報道する新聞を想像してみよう。）（4グループ）

161210_1_A

双方向型博物館 （市民参加の博物館）

平成34年

市民コーナー

- ・ 市政策に沿ったもの
- ・ 三カクのこと（字・業・岳）
- ・ 健康・平和
- ・ 市民提供のお宝紹介
- ・ 他の博物館の紹介（市内）
- ・ 市民の生活と博物館を近づけるやり方・説明会
- ・ 観光案内所・松本市内の紹介併設
- ・ ボランティア教育→活用



※実物写真

実演・体験

- ・ 歴史遺産の修理の過程の紹介、調査のやり方・方法
- ・ 松本の代表的な文化や行事の実演やビジュアルな紹介（押しピナ、松本てまり、他）
- ・ アルプス・美ヶ原のライブ紹介

博物館の役目の一つ 展示物によって深く説明する（教育）

- ・ 松本市民が松本を認識できる博物館
- ・ 松本市以外の博物館の紹介
- ・ 博物館ニュースをつくらせて発信していく
- ・ 展示解説に多言語使用
- ・ 三カク都のうち、例えば 山の資料の収集・山岳写真ガラス乾板の収集
- ・ 松本らしさ（例えば 水、湧水の紹介をする）
- ・ 松本地方の地質構造を紹介する。（フォッサマグナ）
- ・ 博物館で考えた独自のものをとり上げる

筑摩県をとり上げる
松本の通史とテーマによる紹介
（商都・近代産業）

161210_1_B

月刊 みんなの博物館

松本の未来をみつめて

昔から今までのいろいろな松本がわかる展示が完成!!

- 三岳郡、三ヶ嶽、山・音楽・学 がわかるような博物館
 - まること博物館としてシオラマのようなもので一見でわかるように
 - 松本の歴史の経過が一目でわかる展示
 - パラパラになっている資料がどこにあるか来館者がわかる様になっている
 - 近代遺産がお城に偏る、近代の歴史がよくわかる
 - 歴史だけじゃなくて産業がわかり、体験できるように
 - 松本の歴史が今の生活にどのようなつながっているかわかる博物館
 - 街歩きの間点
 - 駅からお城へのマークをつける等
 - 湧水の街がわかる案内
 - ガラス越しでなく露出展示・動態展示がある、レプリカに触れる等
 - 未処理を含む取藏品が整理されている
- 開放的な建物になりました!!**
- 開放的なスペースから自然に入館できる
 - 前庭からあいまいなスペースがあって入館できる
 - 開放的建物、展示も

平成34年4月10日

子供も大人も気軽に立ち寄れるスペースがあります!!

- 子供がきてくれる↓リピーターになる
- 子供や障がい者等が見学しやすくなっている
- バリアフリー、目録の高さが子供向け
- リピートしやすい工夫、小学生が何度もくる
- 親子連れや子供（児童生徒）が何度も来館する
- 博物館で学んだ（遊んだ）子供が、友人や子供を連れてまた来たくなる場
- 演委会が行われる博物館
- スペシャルリストの話、昔の話をきけるような博物館
- 年配の人と若い人の交流ができる博物館

博物館の外観の絵



松本の食を味わえます!!

- 松本の食べ物がいづでも食べられるように
- 松本のうつわを使ったカフェにしたい

顔写真の絵

館長あいさつ



161210_1_C

未来 新聞

誕生！ 新しい 楽しい わくわく 博物館

平成34年
5月5日
オープン

- ・ 展示で新しい知識
- ・ 楽しく・おもしろく
- ・ 勉強の場
- ・ 興味がわく
- ・ 松本の子もたちと学ぶことができる
- ・ 博物館がいつも動いて
- ・ ここにいればどこで何が動いている
- ・ 情報発信されている



※実物写真

松本の宝を

実は一番大事なのは管理・收藏

- ・ 收藏大事。未来に残す。
- ・ 博物館の一番大事 保存。なくさないよう。

夢の学び場所

こんなことが学べます

- ・ 三ヶ谷郡 特に岳を
- ・ こんなに高い山がたくさんあるまちはない
- ・ 富士山に比べていろんな姿が見られる
- ・ 岳は歴史がある。資料を集めて特にちゃんとやる
- ・ 商部松本のおいたち
- ・ 伝統文化行事 風俗
- ・ 松本出身の歴史に名を残した人
- ・ 時代順の展示はわかりやすい
- ・ 松本の全体がわかる
- ・ 道路・川・運河を知ることが将来をつくっていくことにつながっていく
- ・ 「学習室」大画面で映像を見る
- ・ 子どもと工作や民俗文化にかかわるものを一緒につくる場
- ・ 次回展示の予告のガイダンスルーム
- ・ 他の館でも（県外）どんなことがやっているかがわかる
- ・ 「会議室」講演会 先生と話をする（懇談）
- ・ 「市史」を解説する講演会
- ・ 松本の「宝」を展示する部屋
- ・ 特別展示が必要
- ・ 大型展示 年1〜2階（エジプト文明とか）
- ・ 「喫茶室」（テラス） 疲れたら休めるところ
- ・ 外にもつながっている喫茶室
- ・ ロッカーは必要

夢の

- ・ 予算とスタッフがこれまでの倍に!!
- ・ 学芸員のレベルが2ステージUP!
- ・ PR 広報をもっと大々的に
- ・ 市内博物館と整合性をどうつけるか

161210_1_D

見る！知る！体験する！ 新ミュージアム明日オープン

・ バチンコ屋より楽しい博物館

<ul style="list-style-type: none"> 過去～現代～未来までつながる博物館 現代までつながる博物館 江戸の城下から明治、大正、昭和、平成までつながる これからできるまちの姿までわかる 中世～近世の知識、インフォメーション 	<ul style="list-style-type: none"> 見逃せない「常設」展示物見 (2～3ヵ月に1度かわります) 展示が変わる。あきない→何度も行く 常設展示が2～3ヵ月に1度、大層にかわる 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が楽しめるおまつり学習体験 子供が自分で何かをつくりながら松本の歴史を学ぶ 体験型の博物館 ガラボウ 松本の方言でしゃべるコンシェルジュ 方言でご案内ロボットコンシェルジュ
--	--	---

・ 2DAYチケットで全てまわれる



※実物写真

お城に負けない外まわり。アルプスのスタイル

<ul style="list-style-type: none"> 展示をかえやすい仕組みと設備 新しい博物館をイメージした絵 	<ul style="list-style-type: none"> 10年、20年前の松本がわかる。四季がわかる 3Dシアター 3Dシアターをイメージする絵 	<p>待ってるじー</p> <p>ロボットコンシェルジュ ガラボウくんの絵</p> <p>館内の案内をする</p> <p>QRコード</p>
--	--	--

・ 多くのタイアップもされています。【観光】

161210_2_A

A. 収蔵

- 収蔵庫管理、調査及び部門納得
- 収蔵スペースが新博物館に大置積必要あるか？
別の場所に！博物館のスペース有効活用

C. サービスなど

- 市民交流会の内容具体化してほしい
例えばテーマも話し合うとか
- 松本のことを松本字でくぐることは大変よい
あとは内容充実
- 「サービス」に対する差は大賛成

B. 展示

- 館内の見学にあたってイヤーマイクによる説明があるとよい。（東京の博物館では常時やっている）
- 博物館の展示は見学した人の感想や意見を取り入れる手段が明示されていない（目安設置等）
- デジタルセンター 通俗易懂に
- 時代時代に応じた 衣・食・住の展示は嬉しい。（【課題】1について）
- テーマ9つよいと思う
- デジタルセンターの設置は良い。（中町・錦手町・女鳥羽川・土土など紹介してほしい）
- 博物館に来る人の年齢別人数を知りたい（誰をターゲットにした展示か？）
↳→来館者の属性を調べる →ターゲットを明確にする
- 松本市内の博物館の紹介コーナー
- 外部博物館への観光案内するコーナーあってもよい
- 本館と他の市内博物館の関係性を明確にする
- 市民参加の展示 市民の収集したもの
- 博物館ニュースの発信
- アルプス・美ヶ原ライブ音楽展示
- 松本出身の有名人の紹介コーナー
- 山小屋主人 山岳写真家の山岳写真の展示

●松本市に新しくできる博物館の構想案

- 質問 ベンチマークにすべき博物館は？
- 今日気がついた事 選博物館の2から北アルプス方向を見る景色は素晴らしい。
→この景色を見る手段
- 博物館のハード「松本らしさ」はどのように反映するのか？
↳博物館の中に清流が流れ水草が茂り魚が住む小川

161210_2_B

A. 収蔵

- 収蔵庫に保管方法の段階があるのはよい
- 見せる収納庫はよい
- 「見せる収納庫」はよい
↳修復している現場が実演のようにみられるとよい
- 良い収蔵 1. 2. 3. 4.
- 十分な収蔵スペースとは〇〇ぐらいなのか？

C. サービスなど

- 調理室？
- 市民交流室はエムの会等団体に所属していないとダメ？広がらないのでは？
- ショップに近い場所で体験（実演）ができる場があるとよい
- 不要な収蔵品を処分するなら一般に売り出す場があればよい

B. 展示

- 展示、企画展示は極めて重要 年1〜2回
↳企画展を全国に？
- 親子の博物館 子ども向けの展示はいいと思う
- 親子だけ？子供だけ？大人同士はダメ？
- 建物の外（庭）はありますか？
- デジタル展示のボリュームを少し大きくしたらどうですか？
- 岳・奥・雪のイメージがはっきりわかるような展示
- 現在の松本をわかり易く案内してくれる人がいるととっても嬉しい

●松本市に新しくできる博物館の構想案

- まとまりすぎ 松本らしきとは・・・
- 重要資料図書館の一般の取り扱いはい？

161210_2_C

A. 収蔵

- 収蔵 外気、日光、温度、湿度の影響を考慮していること
- 十分な収蔵スペースを確保すべき

B. 展示

- 展示品は主に江戸時代以降にして江戸時代以前は少なめ
- 展示 ①ビクターセンターの展示 (穀類) 親子のハクブツエン
- 展示に関して、松本の歴史には余力を注がなくても、歴史より実物の収蔵物の展示に
 - 実物をできるだけ展示
- 1～2年先のイベントを所しては？
- 「大松本考古展」とか

C. サービスなど

- 松本市の拠点として交流学習会 (講座室)
- 駐車スペースは？
- 市内の博物館収蔵品
- イベントが全部わかる
- 小学生の課外、教育をする。博物館で授業
- 託児室。抱えたまま見るのは大変
- 来館の機会を広げるなど

●松本市に新しくできる博物館の構想案

- 各階の収蔵は最小限にして4階全フロアを使う。1、2階の展示場を*
- 階段のより下り少なく
- 展示会場を広くとる。収蔵庫を減らすということではない。
- 展示室はあまり上下に分かれない

161210_2_D

A. 収蔵

- 難しそうだが見せる収蔵庫は良い
- 松本市全ての収蔵品を一ヶ所にまとめる必要性？

B. 展示

- テーマが多い わかりにくい
- 子どもが「発見」
- 「9つの展示テーマ」とは 道具・機械がない
- ロボット案内係
- 見ておもしろいWEBでの発信につなげる。

C. サービスなど

- 都市のレベル 活動キャップ 大きさ/金のバランス (信州の大問題)
- 市民交流室は会のサポーターしか使えないのか？
- 松本基幹博物館らしい特色を持った部屋の構成
- 部屋の名称は親近感のわく呼び方に。ぎふメディアコスモスのような
- 県レベルと中核レベル見極め
- 情報室 メンバーがPOINT →AV
- 市民交流室
- カフェ・ショップを売りに
- 屋外広場
- カフェ・ショップだけでも行きたくなるレベル

●松本市に新しくできる博物館の構想案

- 見せる収蔵ってこの構成でできるのか
- 屋外広場とのつながりを表現
- シアター常設

(2) 新しい博物館を考える市民のワークショップ

(お城周辺地区まちづくり推進協議会・歩いてみたい城下町まちづくり連合会)

新しい博物館を考える市民のワークショップ 意見のまとめ

平成28年11月9日

お城周辺地区まちづくり推進協議会・歩いてみたい城下町まちづくり連合会

平成28年3月に、松本市立博物館が、現大手駐車場北側敷地に移転することが発表されて以来、多くの市民が新しい博物館に大きな期待を持っています。特に、三の丸周辺のまちづくりに主導的に関わってきた「お城周辺地区まちづくり推進協議会第2ブロック」では、松本市立博物館の移転先地域の、大名町・土井尻町・六九町の住民が中心になって、長野県建築士会松筑支部と共に、勉強会を重ねてきました。

今回はより議論を深める為に、「お城周辺地区まちづくり推進協議会」と「歩いてみたい城下町まちづくり連合会」が共催し、市民に参加を呼びかけ「これからの博物館を考える・三の丸ワークショップ」を4日間にわたり開催しました。

地元周辺の住民や事業者を中心に、建築士会・博物館職員・松本市都市政策関係職員も交えた延べ100人余りの方々が参加しました。



各回にテーマを定め、

- 第1回(10月20日)…現在の博物館について、新しい博物館の展示・企画などのアイデアについて
- 第2回(10月21日)…博物館の学びについて
- 第3回(10月27日)…博物館と周辺のまちづくり
- 第4回(10月28日)…博物館のコンセプトとこれからの展開

以上4回のワークショップの内容をまとめています。

今回の松本市立博物館の建設地は、松本城、松本駅、そしてあがたの森・松本市立美術館・まつもと市民芸術館で構成される松本市中心市街地の重心となる「都市のへそ」に位置する、全国でも珍しい「まちなか博物館」となります。

新しい松本市立博物館が、多くの市民の学びの拠点となり、多くの来訪者にとって松本を知る場所となると共に、中心市街地の核施設としてまちづくりとも連携する事を期待します。

今回のワークショップの内容を市民の声のひとつとして、松本市立博物館施設構想に対して、また検討委員会での議論の参考として頂けると幸いです。



1 現在の博物館に対する市民の使い方やイメージ

ワークショップでは、まず現在の博物館について大切な点、もったいない点について話し合いました。実は、あまり行っていないという意見も多く、厳しい意見も投げかけられました。新しい博物館では、繰り返し行きたくくなるような工夫が求められています。また参加者にアンケートを行い、私の使い方として博物館の利用状況を聞いたところ、大きく6つの使い方があることがわかりました。

今の博物館の使い方タイプ

- a.『学びの意図をもって訪れる』タイプ
- b.『興味のある企画には行く』タイプ
- c.子どもや客人など『誰かを連れていく・勤める場所』タイプ
- d.『問合せ・博物館関連購買・その他用事』タイプ
- e.『なんとなく行ってみたい』タイプ
- f.『実はあまり使っていない』タイプ

厳しい意見

- 数多い収蔵品に対して十分な魅力ある展示になっていない。
- 一度行っても、繰り返し行こうとは思わない。
- 小さいころに学校で行っただけで大人になってからは行っていない。
- 古い・暗いイメージ

厳しい意見もありますが、新しい博物館にはみんなが期待。ワクワクする新しい博物館の構想、企画案を！

新しい博物館を考える市民のワークショップ（主催：お城周辺地区まちづくり推進協議会・歩いてみたい城下町まちづくり連合会）

2 新しい博物館に対するアイデア「展示・学び」

第1回から第3回のワークショップで議論された内容は、研究、収蔵、データベース、企画など多岐にわたりますが、ここでは展示・学びに関して具体的なテーマ毎に代表的な意見としてまとめました。また、各グループでの議論のより細かな内容は、資料編としてグループ毎にまとめています。

多くの参加者が博物館にはあまり行ったことがないという意見が聞かれるなど、現状として博物館にたまには足を運ぶという人が少ない状況を改善し、展示・学びの場として行きたくなることはもちろん、積極的な利用を促す必要性が浮かび上がっています。

アンケートにおける博物館で学びたいコンテンツとしてあげられた意見をまとめると、「松本の歴史・変遷」「松本の文化・祭り・物語」「工芸・民芸・クラフト」「松本の食文化」「自然・地理」「博物館の内側」などがあり、市民生活に根差した博物館をイメージする意見があげられています。アンケートの結果は、ワークショップ各グループのまとめと共に資料編にまとめています。

(1) 博物館の展示について

松本城とのセット券で多くの方に見学利用されている現状に対して、移転する事で単独の施設として更に人を引き付ける展示が求められています。施設面では、古い・暗いイメージの施設に対して、新しい・明るいイメージを求める声もありました。総合博物館として、あらゆる分野に着目する事は必須である一方、松本市立博物館としての特徴をつくり、テーマを明確にするべきとの意見もありました。

それに対して、

- テーマからストーリーに展開する展示構成
- 明確に城・松本城を基軸のテーマとして、歴史・民俗・文化等への展開
- 体験型を始めとした「五感」に触れる展示
- AR・VRなどの積極的な活用
- ジオラマや模型による、まるごと博物館のイメージのビジュアル的な展開
- 人と人が交わる展示（学芸員や市民サポーターによる案内・解説を恒常的に計画）
- 子どもが存分に楽しめる工夫

また、全体を通して、

- リピーターに応える展示
- 博物館通信

など、市民や来訪者に積極的にアピールする質の高い情報発信・PRの重要性を指摘する意見も多くみられました。

(2) 博物館での学びについて

より気軽に楽しみながら学びたいという意見と、より深く学ぶ為の知的興味に応える施設であって欲しいという、二つの大きな意見の方向性がみられました。学びとともに、教えることにもつながっていく、また学びを通しての交流の仕掛けがある博物館も求められています。

「気軽に学びたい」

「気軽に学びたい」という意見には、

- ・ 模型・ジオラマ（まるごと博物館松本を総合的に捉える。）
- ・ 実演・体験（語り部・伝統食・湧水）
- ・ 子供が親しめる学びの場
- ・ キュレーター、コミュニケーターによる展示や企画のグレードアップ

など、五感で楽しみ興味をもてるきっかけが大切となる博物館の学びのイメージがありました。

「深く学びたい」

「深く学びたい」という意見には、

- ・ 情報・資料の閲覧・検索の工夫
- ・ アーカイブ・データベース化
- ・ 資料整理のテーマ性・学芸員との交流
- ・ 学ぶ仲間と交流できる
- ・ 開館時間の配慮（アフター5の利用）

など、落ち着いた空間で、じっくりと学びたいというイメージがありました。学びを深められる仕掛けが求められています。

「教えたい」

「教える」ための学びと機会も大切だという意見がありました。

自らが深めた「学び」を発信する、教えるスキルを学ぶといった、「教える」ためのレベルアップや教える機会の提供といった仕掛けも大切であり、市民学芸員や市民研究員、市民ディレクターを育てるといったアイデアもありました。教える立場になるためのサポートとなる学びの仕掛けが求められています。

「気軽に学ぶ」「深く学ぶ」といった、相反するイメージを、施設空間としてまとめあげる難しさも浮かび上がっています。また、歴史をベースとしつつも、現在の、未来の松本を考える学びの場でありたい、という意見も多くみられました。

3 博物館と周辺のまちづくり

(1) 建築に対して

各グループでの議論の中で、建築、特に大きな規模とプログラムを持つ公共施設は、建築を見て使って楽しむ事が、すなわち建築自体にもワクワクすることが、まちづくりや市民の誇りの観点からも、観光に対しても重要だとの共通認識がありました。まつもと市民芸術館や松本市美術館の例からも、美しく多くの人々に愛される建築のデザインは、施設のプログラムと共に重要だとの意見が多くありました。

(2) まち歩きの拠点・まちの憩いの場として

博物館のプログラムとして、「松本まるごと博物館」構想にあるような、歴史ある松本城下町が博物館のメインコンテンツであり、博物館がまちの研究・情報拠点としてまち歩き・まち探検の起点となり、山岳や天守の景観も楽しめるような緑とゆとりのある、憩いの空間であって欲しい、との意見が出されました。

(3) 周辺環境との関係性・延床面積のわかりやすい説明

限られた敷地に建てられる建築であることから、8,000㎡の施設規模の検証とともに、周辺のまちに対する圧迫感を懸念する声も多く、周辺の路地や緑の空間と調和したスケールを抑える工夫や、中庭、通り抜け空間、ピロティ空間など、特に接地階で街とシームレスに連携する工夫がアイデアとして出されています。

(4) 交通について

博物館単体だけでなく、松本城と博物館を繋ぐ大名町や、周辺の街路との一体的な整備を望む声や、現在の観光バス駐車場代替の計画や、市街地公共交通との連携が必要との意見が多く出されています。

以上のように、都市計画、都市デザインの視点からの指摘も多くありました。

4 新しい博物館に向けての展開

展示・学び・まちづくり、と3回のワークショップでの様々な意見やアイデアを踏まえて、第4回のワークショップでは、「新しい博物館に向けての展開」について意見が交わされました。

魅力的でワクワクするような博物館を創るためには、新たな仕掛け、市民を巻き込んだ取組みが必要との意見が多かったため、参加者がキュレーターの立場になったとの仮定で「新しい博物館で展開してみたい企画」を考えながら、新博物館建設前に取り組んだ方が良いプログラムや手法など企画アイデアを話し合いました。具体的な企画を考えることで新しい博物館のコンセプトや方向性を探っています。

「プログラム」としては、例えば

- ・博物館宛まち歩きツアー
- ・城下町の暮らしナビ
- ・里山からクラフトへ
- ・郷土食・伝統食体験（飴・菓子・味噌・日本酒など）
- ・伝統行事（飴市・青山さま・ぼんぼん）
- ・昔の遊び（めんこ・竹馬・竹とんぼ）
- ・伝統芸能（三味線・琴・踊り・お座敷遊び）
- ・現在のまちに息づくものづくりや仕事の道具などを博物館的に楽しむツアー

「手法」としては、例えば

- ・子ども博物館相談室
- ・ワークショップによる市民連携企画立案
- ・収蔵品データベース
- ・立体映像
- ・博物館情報（SNS・クチコミ・紙媒体・ミニFM局）
- ・企画展のテーマ公募
- ・研究テーマの公募
- ・キュレーター育成（市民学芸員）
- ・高度専門知識のまち案内人

これらの具体的なアイデアから、「城下町松本の歴史」「城下町の暮らし」を知り、学び、それを通して人が交流する仕掛けが新しい博物館の主軸となるコンテンツとして期待され、博物館だからこその資源である収蔵物、研究成果、展示表現力、コミュニケーション力などをフルに活用した様々な企画や手法を展開することが大きな方向性として見えてきました。

この全4回のワークショップから見えてきた「新しい博物館」のあり方は、図らずも、松本市立博物館が今まで進めてきた「松本まるごと博物館」構想と重なります。

その他、

- 新しい博物館の魅力を創る・支える、若い博物館ファン・サポーターを増やす企画に取り組む
- 博物館構想に対して、地元とのコミュニケーションをもっと増やして欲しい

と行った意見も投げかけられました。

「松本まるごと博物館」

学都まつもとへ、
松本は屋根のない博物館！まつもとの歩みと文化を知る。
松本の今にふれ、未来を思う。

一まるごと松本を知る旅のスタート地点です。

新しい博物館を考える市民のワークショップ（主催：お城周辺地区まちづくり推進協議会・歩いてみたい城下町まちづくり連合会）

5 まるごと松本を知る旅のスタート地点！

三の丸に移転する事で「都市のへそ」に位置する博物館として、博物館の建物内部に収蔵品を展示する従来の博物館の展示形体をより発展させて、「松本まるごと博物館」のスタート地点として「観る・知る・学ぶ」に光をあてる情報拠点としての博物館機能がより重要となります。

全国でも中心市街地の「ど真ん中」に立地する博物館は珍しく、新しい「松本市立博物館」を「城下町松本の歴史」「城下町の暮らし」をテーマとした「まちなか博物館」に特徴付け、全国に発信するアイデアも出されました。今回のワークショップ全体を通して「松本まるごと博物館」の理念を素直に展開し、「生きた松本のまちをまるごと、博物学、民俗学、考古学、歴史学などの成果や学びを通して博物館的に楽しむ」拠点として「松本市立博物館」を捉える事が、新しい博物館のあり方にとって重要だと考えられていることがわかりました。

市民ワークショップでの意見を全体的にまとめると、「これからの博物館」のあり方として下記のようなイメージが鮮明に浮かびあがってきました。

ワークショップ意見を参考にした「まるごと松本を知る旅のスタート地点」としての松本市立博物館のイメージ



4 所蔵資料の現状

(1) 所蔵資料の現状

【表1 松本市立博物館の資料受入数】 ※1

資料分類	点数	資料種類	備考
総記	9,123	写真資料、展示用 製作物 等	紙焼き、ガラス乾板、フィルム パネル、模型、ジオラマ
考古	23,148	土器、石器 等	国重要文化財 孔雀文磬 (1点)
歴史	23,155	古文書、書簡 等	
民俗	36,613	産業、信仰 等	七夕人形コレクション (45点) 民間信仰資料コレクション (293点) 農耕用具コレクション (79点)
美術	3,698	書、陶芸 等	
その他	20,390	自然	
		民芸	
		文学	
合計	116,127		※2

※1 この他に、受け入れ手続きが未了の資料有り (段ボール箱換算：約500箱×推定1箱につき約10点=約5,000点)。

※2 別途、図書資料 47,882冊

【表2 合併5地区保管の歴史・民俗資料】

資料所在	点数	資料種類	備考
四賀地区	約13,500	歴史、民俗、考古、 はかり、剥製、化石	保管場所：小学校等4カ所
梓川地区	約500	歴史、民俗、考古	保管場所：旧梓川民俗資料館保管庫・ 梓川アカデミア館
安曇地区	約540	歴史、民俗、考古、 自然資料、美術資料	保管場所：安曇資料館
奈川地区	約1,600	歴史、民俗、考古	保管場所：旧奈川歴史民俗資料館
波田地区	約250	歴史、民俗	保管場所：旧波田町役場庁舎
	約300箱	考古	

(2) 所蔵資料の状況 (国指定文化財より)

ア 国重要文化財 孔雀文馨



イ 国重要有形民俗文化財 七夕人形コレクション (一部)



ウ 国重要有形民俗文化財 民間信仰資料コレクション (一部)



エ 国重要有形民俗文化財 農耕用具コレクション (一部)



松本市基幹博物館建設計画

平成29年3月

作 成 松本市

作成協力 (株)乃村工藝社

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本